都市地域特性と映像民俗誌の作成

佐原の映像民俗誌制作をめぐる諸問題

上野和男

Characteristics of Urban Society and the Compilation of a Pictorial Ethnography: Problems Surrounding the Production of a Pictorial Ethnography for Sawara

❶問題
❷佐原の都市地域特性
❸映像制作方法の諸問題
❹映像内容
❺結論

[論文要旨]

この報告は、この研究プロジェクトで作成した千葉県佐原市の都市映像民俗誌について、その目的・内容および作成方法・意義等について考察したものである。この研究プロジェクトでは、典型的な伝統的地方都市のひとつである千葉県佐原市の都市地域特性を明らかにする目的で三篇の映像民俗誌を作成した。佐原市は少なくとも近世以来、町が大きく二つの地区にわかれ、神社を別々に祭祀し、別々の祭礼を毎年実施しながら、対抗と連帯のなかでひとつの都市社会を形成してきた。こうした地域社会構造は、一九世紀以来、双分制という概念で理解されてきた。佐原は、日本ではきわめて珍しい双分制的構造をもつ都市社会であるといえる。

こうした佐原の都市地域特性を映像で表現するために制作したのが、佐原の映像民俗誌である。三篇のうち、二本は新宿地区と本宿地区の祭礼を中心とする映像民俗誌であり、残る一本が新宿・本宿をあわせて佐原全体の都市地域特性を映像化したものである。本稿では、映像民俗誌作成過程の諸問題、とくに撮影と編集について考察し、問題点を指摘した。また、映像民俗誌の内容についても若干検討した。映像民俗誌、とくに都市の映像民俗誌の作成にかかわる問題は多く、この分野はまだ、十分な考察が進んでいないが、今後の都市社会の研究の一方法として、きわめて重要であるといえる。

❶問題

本稿は、この研究プロジェクトで作成した千葉県佐原市の都市映像民俗誌について、その目的・内容および作成方法等について考察したものである。[1] 基幹研究「日本における都市生活史の研究（第二期）」のB班「都市の地域特性の形成と展開過程―一八―一九世紀の下総地域の内陸舟運と流域都市を中心に―」では、調査地域として千葉県佐原市を取り上げ、その都市地域特性をさまざまな角度から明らかにすることを重要な柱として研究を進めてきた。佐原の都市映像民俗誌の作成はその一環であり、伝統的地方都市の地域特性を映像で表現するために映像民俗誌を作成した。具体的にいえば、千葉県佐原市の祭礼を通して佐原の都市の双分制的構造を明らかにした三篇の映像民俗誌である。

民俗誌とは、都市か村落かを問わず、ある地域社会の人々の生活を幅広く記述した調査報告を意味しているが、映像によってこれを表現しようとするのが映像民俗誌[2]である。しかしながら、人々の生活を幅広くにとらえようとする場合、かつての民俗学の民俗誌がそうであったように、ただ漠然と人々の生活を広範に撮影し映像を構成すればよいわけではない。映像民俗誌には一定の課題や意図が必要であり、それが映像民俗誌の価値を規定する大きな条件となる。課題や意図にしたがって人々の生活を幅広くとらえたのが映像民俗誌である。かつて筆者は、村落の映像民俗誌として「芋くらべ祭の村―近江中山民俗誌―」（一九八八年度国立歴史民俗博物館民俗研究映像）を制作した。中山も双分制的構造をもつ村落として多くの研究者に注目されてきた。中山では、むらを二分する東谷地区と西谷地区が、それぞれ栽培したもっとも長い里芋を持ち寄って競べ合う「芋くらべ祭」とよばれる祭礼が行われている。映像民俗誌「芋くらべ祭の村」は、この芋くらべ祭に集中的に表現される中山の双分制に注目し、東西の地区の差異に注目してその構造を明らかにする目的で作成したものである。

今回制作した佐原の映像民俗誌の中心課題は、都市の双分制的特徴である。すなわち、佐原で現在行われている都市祭礼を多角的に記録し、その特徴と、近世以来、利根川舟運の一拠点として、また酒造、醤油醸造の拠点として栄えた佐原の都市社会構造との関係を明らかにするのが制作目的である。とくに佐原が本宿地区と新宿地区にわかれ、それぞれに神社を祭祀し、祭礼を行っているという双分制的構造に着目して制作したものである。[3] この映像民俗誌は、六年余にわたる佐原の祭礼調査の一つの研究成果としての意味をもつばかりでなく、二〇〇一～二〇〇二年現在の佐原祭礼の記録資料としての意味も重要であると考えている。三本の映像民俗誌を制作したのは、映像の研究成果としての意味と記録資料としての意味の双方をあわせて持たせようとしたためである。この意味において佐原の映像も研究映像である。研究映像とは、まず研究者自身の手によって制作される映像であることが重要である。すなわち、研究者自身の視点をもとにして映像を制作するのが研究映像である。研究者が何をどのように撮るかを決定し、研究者自身の手によってそれを編集し、映像民俗誌として完成させるのである。特定の課題を必要とするのは映像民俗誌が研究映像であるからである。映像専門家の技術的サポートの有無はここでは問わない。

本稿では、まず佐原の都市地域特性の概略について検討した上で、映像民俗誌の作成方法と内容の諸問題について考察してみたい。

❷佐原の都市地域特性

都市映像民俗誌の作成にあたって今回、対象に選んだのは、千葉県北部、茨城県との境界の利根川沿岸に位置する伝統的地方都市・佐原であ

る。佐原の都市地域特性として以下の諸点をあげることができる。第一に、佐原は近世にいわゆる在郷町として都市形成された近世都市であることである。第二に、都市形成にあたって重要な意味があったと考えられるのは、物資の集散地としての市場町の形成である。佐原の新宿地区に六斎市が開設されたのが、天正八年（一五八〇）とされ、新宿はその後、商人町として発展して今日に至っている。第三に、佐原はその後、醤油・酒の醸造を中心とする産業都市として発展を遂げる。酒造は寛文年間（一六六一―一六七二）に開始され、また醤油醸造は貞享、元禄年間の一六八〇年以降に開始された。また、第四に、以後の佐原は江戸近郊都市として発展してきた。ひとつは佐原河岸を通して利根川舟運の一拠点となり、銚子経由で運ばれた東北地方の米を江戸に送る米穀中心の船問屋が多く開業した。また、酒・醤油などの佐原の産物も舟運によって江戸に運ばれた。江戸との密接な関係はこうした舟運を通して形成され、江戸の文化が佐原のも浸透してきた。「江戸まさり」と称せられる佐原の祭礼の山車にこのことがもっともよく象徴されているといえる。

第五に、佐原が双分制的な都市構造を特徴としている（図1）。町の中央を利根川に通じる小野川が流れ、ここに河岸が置かれ、物資の流通の中心となってきたが、この小野川を挟んで佐原は、本宿と新宿という二つに大きく区分される。小野川の西に位置する商人町とされる新宿では、神社として諏訪神社を祀り、秋一〇月に祭礼が行われる。一方、小野川の東に位置する職人町とされる本宿では、八坂神社が祀られ、夏七月に祇園祭礼が行われる。夏祭と秋祭はほぼ同じ内容の祭りであるが、佐原を二分しておこなわれるところに特徴がある。また、新宿と本宿では人々の気質も違うとされ、小野川を挟んで二つの地区は競争・対抗し、この対抗関係のなかで佐原という都市が、これまで活況を呈してきたといえる。これはまさに都市における双分制的構造であり、佐原の都市地域特性の中心はこの双分制的構造にある。

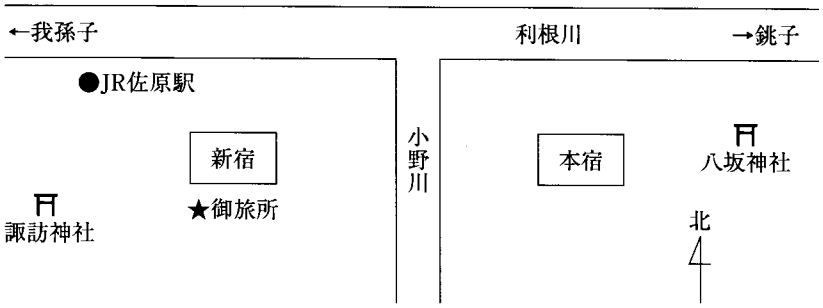

図1　佐原の双分制的都市構造

佐原中心部の西半分に位置する新宿地区の祭礼の概要は以下の通りである。各町はこの祭礼に町内を単位として参加する。諏訪神社祭礼の山車は、歴史的にさまざまな変遷を遂げてきたが、現在、一四の町内が山車を出して祭礼に参加している。山車は幣台ともよばれ、もともとは車のうえに御幣を乗せたものと考えられる。山車はそれぞれの町内のシンボルとなっているが、明治初期までは必ずしも山車の作り物が固定されず、明治時代にほぼ今日見るのような作り物に固定してきた。山車の人形は、天皇や武将などが多く、いわば近代において各町のシンボルとなったものである。現在においても、各町内は自らの山車人形を誇りとしながら保持してきた。

明治以降の近代において佐原の神社祭祀組織は大きな変化を遂げてきた。このうち、新宿諏訪神社の祭祀組織の変化として注目されるのはつぎの二点である。まず第一に山車を持つ町内が増加したことである。『佐原町誌』によれば、江戸期に山車をだした町内は八、また一八六〇年頃山車を持つ町内は一三でしたが、現在は一四となっており、近世から近代にかけて山車の台数は増加をつづけてきた。その構成にも若干の変化が認められる。山車町内の増加の要因は、祭礼参加の地理的範囲の拡大ではなく、大きな町内の分裂にある。近世から近代にかけて佐原の

町は分裂を繰り返しながら発展してきたと考えられる。近代において確認できる例としては、横宿と関戸がある。横宿は一九二六年に北横宿と南横宿に、関戸は一九三四年に西関戸と東関戸に分裂して、それぞれが山車を持つようになった。第二に、明治一〇年以降、祭礼当番に順番の年番制度が採用され、町内間格差の解消に向かっていることである。しかしながら、新宿全体で祭礼を行う伝統は現在も存続しており、重要事項はつねに全町の代表が参加する惣町集会で決定されるシステムとなっている。

山車に乗って佐原囃子を演奏する囃子方は、町内によって囃子方が固定している町内もあり、また、二〇年前との変化を確認できた例もある。例えば、上新町の囃子方は潮来であったが、現在は鹿嶋になっている。横宿では以前は与倉に囃子方を依頼していたが、今は潮来に依頼している。また、関戸では同じ町内の人が囃子方をつとめており、周辺の農村ばかりではなく、町内の若い衆が囃子方をする例もある点は注目してよい。山車の上で演奏される佐原囃子そのものには町による差異は少ないが、それぞれの囃子方には流儀があり、どの囃子方の演奏かは各町内では区別がつくといわれる。

本宿の八坂神社の祭礼は、毎年七月に行われるが、御輿、山車の巡行や祭礼の組織は新宿諏訪神社の祭礼ときわめてよく類似している。本宿、新宿を含む佐原の祭礼は都市構造の双分制に対応して、本宿祭礼と新宿祭礼との双分制的構造になっているのが大きな特徴である。本宿も新宿も祭礼には町を単位として参加し、年番は一定の順序にしたがって町を巡回する。明治期から昭和戦前までは、一〇数年つづいて年番をつとめる町内もあったが、現在は三年ごとに年番をまわしている。祭礼参加の単位として佐原の町内も強い集団性をもっているが、佐原では町内に独自の神社を祀ることはない。町内の集団性の上に、さらに本宿、新宿の集団性が顕著に認められるのが佐原の特徴であるといえる。このように佐原では、いわば重層的な集団性ともいうべき構造が存在するといえよう。こうした祭礼構造は、ひとつの神社を中心として一元的な構造をもつ日本の多くの都市の構造とは異なるものである。

こうした双分制的構造、すなわち、佐原の中心市街地が新宿と本宿という二つの地域に分かれて、それぞれが諏訪神社と八坂神社の氏子になっているという構造は、少なくとも近世以来いささかも変化していない。明治以降、周辺の農村を合併して今日の佐原市が誕生したが、周辺地域は祭礼の観客としては加わるとしても、山車を出すという段階にまでは至っていない。拮抗する新宿と本宿の氏子の範囲はかなり厳格で、それ以上の拡大を示さないといえる。それは、双分制的な都市構造における対抗関係がこのような結果をもたらしていると考えられる。

❸映像制作方法の諸問題

すでに述べたように、制作した佐原の映像民俗誌は研究映像であり、したがって、研究者が中心となって企画し、編集して映像民俗誌として完成させた。ここでは、研究映像としての映像民俗誌の作成をめぐる諸問題について、制作順序にしたがって考察したい。

まず最初に必要なのは、どのような目的と内容の映像民俗誌を制作するかについての要項の作成である。まず、基幹研究「都市生活史」B班のうち佐原の調査関係メンバーが集まって、二〇〇〇年七月に検討会を開催した。しかしながら、この時点では制作費用を充分に調達できなかったことや、二〇〇〇年秋に佐原市制五〇周年を記念した特別の祭礼が開催されるなどから、二〇〇一年以降に制作することとした。市制五〇周年の記念行事それ自体は記録する意味があるが、最近の通常の祭礼記録をめざすわれわれの意図に合わないので、延期をきめたのである。また、二〇〇一年度からは科学研究費補助金の補助を受けることに決定

したので、財政的にも二〇〇一年以降が望ましいと判断した。この検討会においては、佐原の双分制的構造を中心の課題として制作すること、具体的には、現在の新宿、本宿の双方の祭礼について、特定の町内に焦点をあてて記録し、これを比較することによって佐原の祭礼の全体像をあきらかにするという、基本的な方針を決定した。

この方針にしたがって、二〇〇一年八月に最初の制作要項を作成した。この制作要項は、二〇〇一年度の制作について、作成を担当する映画会社向けに作成したものであり、おおよそつぎのような内容であった。制作目的は、「かつて利根川舟運の一拠点として、また酒造、醤油醸造のまちとして栄えた佐原で現在行われている都市祭礼を多角的に記録し、その特徴と佐原の都市社会構造との関係を明らかにする」とする。映像民俗誌は、二〇〇一年度、と二〇〇二年度の二年にわたって撮影・編集・制作する。二〇〇一年度は諏訪神社祭礼を中心とする撮影、二〇〇二年度は八坂神社祭礼を中心とする撮影を行い、それぞれの映像民俗誌（各七〇分程度）を作成するとともに、双方の祭礼を合わせた全体の作品（八〇分程度）を作成する。撮影は数台のビデオカメラで行い、ビデオ映像として制作する。作品には、タイトル、テロップ、ナレーション（全体映像のみ）、背景音楽、クレジットを入れる。費用は、科学研究費補助金「伝統的地方都市の地域特性とその変容に関する比較研究」（研究代表者・上野和男）をあてる。

その後、作成を担当する映画会社は、日本シネセル株式会社に決定し、ディレクターはとくに希望して、かつて「芋くらべ祭の村」の担当ディレクターに依頼することができた。このディレクターは「芋くらべ祭の村」の経験から、研究映像の意味や制作方法を理解しているばかりでなく、双分制についてのある程度の知識もち、この映像民俗誌作成にはもっとも適したディレクターであった。結果として、このディレクターが担当したことが、この映像民俗誌の作成を円滑化するのに大いに役立った。また、映像民俗誌の制作にあたって、一方で必要な条件は現地の協力である。そのために、佐原市教育委員会、佐原の大祭実行委員会、担当の御輿年番、山車年番町などに制作意図を説明し、協力を得ることが可能となった。とくに山車年番町からは外部に公開しない会議や準備過程などの撮影について、全面的な協力を得た。

二〇〇一年度は、新宿諏訪神社の祭礼の撮影を実施した。撮影日程は表1、表2に示すとおりである。この映像民俗誌では、祭礼の準備過程の撮影を重視し、どのような会議が開催され、どのように重要事項が決定されていくかを丹念に記録した。また、御輿年番、山車年番の役割や、各町内の序列や役割についても詳細に記録した。祭礼を中心とする映像民俗誌において、その準備過程を重視する意味は、準備過程にこそ祭礼を支える社会組織と各町内の力学的関係が現出すると考えるからである。この点で祭礼の社会学的研

表1　諏訪神社祭礼撮影日程（2001年）

月　日	行　事　内　容	場　所
9月1日	八朔参会	佐原商工会議所
8日	新宿惣町弊台区長当役長会議	佐原商工会議所
20日	新宿惣町弊台当役会議	佐原商工会議所
30日	北横宿当役会議（祭事役員会）	北横宿
10月2日	潮来源囃子連中依頼・囃子練習（夜）	潮来
4日	氏子年番第一連合年番幹事会議	西関戸公民館
7日	北横宿山車飾付け、踊り練習	北横宿
8日	北横宿提灯配り	北横宿
11日	前日準備	諏訪神社ほか
12日	諏訪祭礼（安全祈願祭、北横宿山車出発、山車巡行御例祭、御神幸発輿祭、お旅所着輿祭、山車巡行）	諏訪神社ほか
13日	諏訪祭礼（弊台年番引継行事、弊台年番引継神前行事、宵宮式、曳き別れ行事、山車巡行）	町内
14日	諏訪祭礼（御輿御神幸、年番前後三町惣町代表巡行、特曳き大会、御輿年番引継行事、北横宿山車最後巡行、山車巡行）	町内

表2　2001佐原諏訪神社祭礼撮影計画（10/11—14）

日		［A］御輿（月橋、白井、宇野）	カメラ	［B］弊台（松村、井口、原、蘇理）	カメラ
11		8：00　御旅所造営（諏訪公園倉庫集合）高張提灯の掲示、テント張り。 ↓ ↓	A	（Cは佐藤、松下、金子）	
12	朝	8：30　安全祈願祭（8：00社務所集合） 〈point〉参加者の席次に注目。以下の神事も同じ。	A C	8：30　安全祈願祭（8：00社務所集合） 9：30—17：00　乱曳き　（Bは北横宿） ↓〈point〉・出発儀礼（デボケ） ↓　・各町の先頭から末尾まで ↓　・テコ棒の操作 ↓　・拍子木と扇子 ↓　・行き違い、当役交渉など ↓〈場所〉・小野川両岸 ↓　・町内 ↓　・桶松前のの字回し	— A B C B
	昼	13：00　御例祭（11：00社務所集合）祓。 14：00　御紙幸発輿祭り 15：00　御輿出発（霊代移し、東鳥居まで） 16：25　浜降り（忠敬橋）（行列を撮影） 16：50　御旅所到着 御旅所着輿祭（御旅所）	A C		
	夜			18：00—22：00　乱曳き	A B C
13	朝	9：00—11：00〈祭り風景撮影〉 ①佐原駅観光案内テント ②小江戸茶屋（まゆ） ③各町詰所風景、観光客など ④シャトル便（小野川）	A	9：30—10：50　乱曳き 11：00—12：00　各町の幣台撮影 （全体、四面、人形、額、彫刻、下座連提灯）	B C A B C
	昼			12：00—17：00　幣台年番引継行事（第一定位置） 12：00　番組終了 12：15　準備ぶれ 12：20　本ぶれ→発進ぶれ。通しさんぎり。 巡行（→15：30） 15：30　第二定位置。	A B C
	夜	17：40　幣台年番引継神前行事（御旅所）（祓）。 18：15　宵宮祭（—19：00？） （通しさんぎりの五町目で移動、北横宿の幣台の上で撮影）	C	17：40　幣台年番引継神前行事（御旅所） 18：15—20：00？　正年番北横宿区曳き別れ行事（第二定位置） 18：15　準備ぶれ 18：20　本ぶれ。通しさんぎり。 19：00　正年番幣台移動 19：15　受年番（下新町区）定位置へ移動。準備ぶれ、本ぶれ、通しさんぎり。 19：20　受年番、曳き別れ位置へ。 新上川岸区幣台より曳き別れ。 20：30—22：00　乱曳き	A B A B C
14	朝	8：00　記念撮影（御旅所）（7：30集合） 8：30　御旅所発輿祭 9：00　御輿出発。御神幸。 （御輿渡御、第1、2、3、4御祈祷、惣代祈祷など撮影）（—13：40） ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	A	8：00　記念撮影（北横宿幣台前）。 8：30—10：00　乱曳き 10：00—14：00　年番前後惣町代表巡行 9：50　下川岸定位置に集合 10：00　北横宿区長挨拶、乾杯 10：10　正年番より通しさんぎり。巡行。 12：10　曳き別れ式。定位置へ。 正年番より通しさんぎり。 正横宿区長挨拶、手締め。解散（12：20？）	B C
	昼	13：40—16：30　にぎわい広場（民俗芸能、囃子、神楽）撮影 ↓	A	14：00—16：00　特別曳き廻し（お祭り広場） 16：00　下番の式 16：20—17：00　北横宿定位置へ。	B C
	夜	16：30　大竹家（仲川岸）高張提灯火入れ。 18：00　諏訪神社到着。御霊代本殿へ奉還。 御輿年番引継行事 御本社還御祭 19：00　直会（レストラン大藤）。	A C （17：00—）	18：00—22：00　乱曳き	B

究においては、準備過程の記述と分析が不可欠である。準備過程は概ね一台のカメラで撮影し、本番の祭礼は最大カメラ五台で撮影した。このうち、映画会社のカメラは三台、研究スタッフ（おもに大学院生）の家庭用ビデオカメラが二台である。映画会社のカメラを中心に三つの撮影班を編成し、カメラ位置やそれぞれの撮影対象は研究班が指示した（表2）。祭礼本番の撮影は、基本的には儀礼過程を追いかけることに終始したが、ここでも撮影を実施する前に撮影対象の現地観察を数度、実施し、また、中心の撮影対象となる年番町内内には撮影スタッフを紹介し、撮影が円滑に進むように努めた。さらに、祭礼の儀礼過程の撮影以後、佐原の町内の風景や関連する文書や絵図の撮影も行った。二〇〇二年度の本宿八坂神社の祭礼の撮影もほぼ同様に行った。日程もほぼ同様であるが（表3）、前年の経験からさらに詳細は撮影計画を作成して（表4）、撮影にあたった。

撮影した映像をもとに、まず、新宿諏訪神社祭礼、本宿八坂神社祭礼のそれぞれの映像民俗誌を作成し、そののちに総集編ともいうべき作品を作成した。二〇〇一年度は、新宿諏訪神社祭礼の映像民俗誌、二〇〇二年度は新宿八坂神社祭礼の映像民俗誌と総集編を作成した。したがって、今回、佐原に関する映像記録として制作したのは、以下の三篇である。

①「佐原の町の二つの祭―八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭―」（DV八二分）

②「新宿諏訪神社秋祭―北総佐原の二つの都市祭礼1―」（DV一八〇分）

③「本宿八坂神社夏祭―北総佐原の二つの都市祭礼2―」（DV二七〇分）

編集作業はまず、撮影が終了した後に担当ディレクターが作成した撮影全ショットの一覧表から編集案を作成し、荒編集をディレクターに依頼する形で開始した。このほかに研究班のスタッフが撮影したビデオもすべてチェックした。当初はそれぞれ七〇分程度の作品を作成する予定であったが、撮影量があまりに膨大であり、また研究資料としては、より詳細な映像記録が必要との考え方から方針を変更し、新宿、本宿それぞれの映像は、可能な限り網羅的に作成することにした。総集編に対して資料編ともいうべき映像民俗誌の作成である。こうした資料編的な映像資料の考え方は、近年広範に取り入れられつつあり、民俗映像としては定着しつつあるといえよう。[4] この結果、新宿の資料編②は一八〇分、本宿の資料編③は実に二七〇分の映像記録となった。

新宿諏訪神社祭礼、本宿八坂神社祭礼のそれぞれの映像民俗誌の作成ののちに、二〇〇二年度に佐原の祭礼の全体像を記録した総集編①を制作した。編集にあたって、資料編はいずれも、現地音とテロップによって解説したが、総集編

表3　八坂神社祭礼撮影日程（2002年）

月　日	行　事　内　容	場　所
6月1日	惣町御輿年番前後三町（17：30―）、惣町会議（19：00―）	社務所
2日	惣町当役長会議	金よし
7日	惣町当役会議	社務所
9日	惣町御輿年番前後三町・三役合同会議	社務所
27日	山車年番下座依頼・囃子練習（夜）	与倉
30日	山車飾りつけ	山車蔵
7月1日	神社清掃（5：30）、御輿出し（5：30）、注連縄（8：00）	八坂神社
	奥宮祭典（7：00―）、惣町参会（10：00―）	社務所
4―6日	踊り練習（6：30―7：30）	魚屋大山
8日	山車年番区当役若衆合同会議	社務所
10日	祇園祭り（10：00―）	八坂神社
11日	前日準備	
12日	八坂祭礼（山車人形飾付け6：00―、安全祈願祭8：30―）	八坂神社
	山車巡行、前後三町代表巡行、総踊り。	
13日	八坂祭礼（山車巡行）	町内
14日	八坂祭礼（山車巡行。御輿町内御神幸）	町内
12月9日	文書撮影	

表4　2002佐原八坂神社祭礼撮影計画（7/09—14）

日	［A］御輿（月橋、白井、小関、宇野）	［B］山車（佐藤、松下、上野）	［C］松村・小笠原
9	御輿飾付け（八坂神社）［C宇野］ 幕舎3張設営、祓所設置（御手洗舎横） 潔斎所設置（社務所玄関前） 高張提灯設置（拝殿）、大榊設置	—	—
10 祇園祭	献弊使係が香取神社へ出発（戻りを撮影） 9：00　三役御出座使者出発（社務所から） 9：30　来賓、惣町関係者参集（社務所） 10：00　祇園祭神事（拝殿）、記念撮影(拝殿前）神職、献弊使接待（明治屋）、楽人接待（控室）、直会［弁当］（社務所）	9：00　獅子宿(八日市場)［C上野］ 獅子飾付け［C上野］ 9：30　八坂神社祇園祭［C上野］	9：00　神楽宿［C松村］ 猿田彦宿［C小笠原］ 9：30　八坂神社祇園祭 ［C松村・小笠原］
11	13：00　若連宿準備、テント設置（若連）（撮影なし） 19：30　佐原北ホテル集合	— 19：30　佐原北ホテル集合	— 19：30　佐原北ホテル集合
12	8：30　安全祈願祭（八坂神社） （各町が八坂神社の札を受ける） 御輿の八坂拝殿安置状況（御輿詳細撮影） 乱曳き　・当役交渉 ・他町内通過の儀礼 ・囃子の競演 ［A、B、C］ 〈各町山車撮影(全景、四面、人形、額、彫刻、下座連、提灯、若連、曳き手、手古舞〉 〈祭礼風景〉　・にぎわい広場 ・ふるさとテント村 ・小野川サッパ舟 22：00　夜、乱曳き。本川岸山車亀村宅へ 22：00—下座連宿に到着する下座連	6：00　浜宿山車準備、八坂神社の御札飾付け［若連宿付近］ 7：00—下座連迎出発（14人）与倉下座連到着（山村会館→浜宿） 10：00　浜宿デボケ。浜宿町内巡行 乱曳き　・他町巡行 ・浜宿踏切越 ［B、C］〈神楽、獅子、猿田彦の宿〉 18：00　山車灯入れ 19：00　浜宿山車にぎわい広場 夜、乱曳き（小野川沿いなど） 22：00　浜宿山車若連宿へ 若連宿に集まる若連	8：30　仁井宿デボケ［O］ 8：30　八日市場デボケ［M］ 9：30　神楽組立て 10：00　山車町内巡行 乱曳き 19：00—夜乱曳き 22：00　山車最終地点へ 八日市場［松村］ 仁井宿［小笠原］ 22：00—当役宿に集まる当役
13	9：00　本川岸デボケ（井上木材付近） 10：00　乱曳き ［A、B、C］ 〈各町山車撮影（全景、四面、人形、額、彫刻、下座連、提灯、若連、曳き手、手古舞〉 〈「のの字回し」「惣町踊り」〉 15：30　各町山車「のの字」番組定位置へ（山村会館） 18：00　山車灯入れ 18：20　浜宿サンギリ開始—→八日市場サンギリ(年番触れ) サンギリ終了後、浜宿から「のの字」開始。5回「のの字」終了後、順次、小野川の「惣町踊り」へ 19：30—「惣町踊り」（小野川沿岸4か所、各町3分)。忠敬橋通貨で番組終了。乱曳き。 〈サンギリ〉〈のの字〉撮影分担 A白井　浜宿、寺宿、田宿→惣町踊り B松下　仁井宿、船戸、下仲町→山村会館→惣町踊り C松村　上仲町、荒久、本川岸、八日市場→惣町踊り	7：30　浜宿山車準備(若連宿付近) 10：00　浜宿デボケ・巡行 乱曳き	9：00　船戸デボケ（杉崎） 10：00　乱曳き
14	8：00　1回神楽迎（8：30　2回目）（口上） 8：50　3回目迎え、神楽デボケ 9：35　八坂浜宿鳥居前集合、八坂神社へ 9：40—三役八坂社務所へ（御頭仮安置） 10：00　御霊移し神事（拝殿） 直会（社務所） 11：00　出御祭（拝殿)。御輿降ろし（棟梁指揮） 三遍まわり。浜宿鳥居より出御 12：00　御浜降り（忠敬橋） 御神幸（氏子惣代、会長、町内祈願） 17：10—18：10　御中食（船戸、本宮会長宅） 20：30　御還幸（浜宿鳥居から)。三遍まわり 還幸御霊移し 御輿年番引継ぎ番組行事（①拝殿前［手打式］、②浜宿鳥居前［口上順達］） 22：00　浜宿山車フィナーレ 山車会館搬入	8：00　1回獅子迎（8：30　2回目） 8：50　3回目迎、獅子デボケ 9：35　八坂浜宿鳥居前集合 9：40　八坂神社へ 10：00　御霊移し神事（拝殿） 直会（社務所） 11：00　出御祭、御輿降ろし 三遍まわり、出御。 12：00　御浜降り（忠敬橋） 乱曳き　17：00　浜宿山車にぎわい広場 18：00　灯入れ 20：00　三遍まわり(獅子、猿田彦)(八坂神社)、還幸御霊移し 御輿年番引継ぎ番組行事 21：30　［B］カメラ終了	8：00　1回猿田彦迎。2回 8：50　3回目迎、デボケ 9：35　八坂浜宿鳥居前 9：40—11：00　出御祭まで 12：00　浜降り、御神幸 〈御神幸〉 各種祈願（砂撒き、神事、お札授与） 香取一の鳥居、向津。浜宿街道、八坂神社前通りなど 20：30　御還幸。番組行事（船戸山車、昼間休み） 21：00　船戸山車蔵出発 22：00　船戸山車蔵着

にはナレーション（女性ナレーター）を加えた。女性ナレーターを起用したのは、観客にやわらかな理解しやすいナレーションをめざしたからである。ナレーションもテロップもあまりに大量に入れる観客自身が食傷気味となり、無視する傾向が出てくるので、適度な量に押さえたつもりである。最近のテロップ技術の進歩はめざましく、一九八八年に「芋くらべ祭の村」を制作した当時とは比べることができない程、容易に挿入することが可能となった。

最後に、制作した映像民俗誌の現地還元について付言しておこう。近年フィールドワークの成果の現地還元が叫ばれて久しいが、われわれは制作した映像民俗誌を、関係する町内ばかりでなく、全町内に配布した。とくに中心となった町内には資料編の映像民俗誌もあわせて配布した。佐原の人々のうち直接間接にこの映像を見た佐原市民は多く、これまでにない佐原祭礼の記録であると、評価を受けている。まだ実現していないが、できれば現地試写会も開催したいと考えている。

❹映像内容

つぎに映像の内容について検討してみよう。まず、三篇の映像民俗誌の主な内容は以下のとおりである。資料として末尾に三篇の詳細な内容を示したので、あわせて参照されたい。

①「佐原の町の二つの祭―八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭―」

○映像の趣旨

○佐原の位置と歴史の概要

○本宿八坂神社夏祭

・本宿地区概要（町並、地図、八坂神社、奥宮）

・山車と囃子（山車構造、囃子の構成、山車隊列）

・準備会議（惣町定例会議）

・獅子衣装合わせと踊りの練習

・奥宮祭と祇園祭

・夏祭第一日目（デボケ、山車巡行、各町の山車、夜の山車巡行）

・夏祭第二日目（新婚祝い、当役交渉、番組定位置、のの字まわし、総踊り）

・夏祭第三日目（三役呼び出し、神事、神輿巡行、浜降り、個人祈祷、神輿年番引継行事）

・夏祭の特徴（年番順序、惣町年番と山車年番、山車番組図、山車古写真）

○新宿諏訪神社秋祭

・新宿地区概要（町並、地図、諏訪神社）

・準備会議（八朔参会、北横宿当役会議、神輿年番第一連合幹事会議）

・下座連依頼

・山車飾りつけ、踊り練習、提灯配り

・秋祭第一日（安全祈願祭、北横宿山車出発式、山車乱曳き巡行、例祭神事、御輿発輿式、浜降り行事、御輿お旅所着輿式、山車夜間巡行）

・秋祭第二日（山車乱曳き巡行、幣台年番引継行事、各町の山車、幣台年番引継神前行事、幣台年番曳き別れ行事、山車夜間巡行）

・秋祭第三日（御輿お旅所発輿式、御神幸、御輿年番引継行事）

・秋祭の特徴（参加町内の変遷、幣台規則、年番順序、山車番組図、山車古写真）

②「新宿諏訪神社秋祭―北総佐原の二つの都市祭礼1―」（DV　一八〇分）

・映像の趣旨

・佐原の位置、町並み、幣台年番町北横宿、山車番組図
・準備会議（八朔参会、幣台区長当役長会議、当役会議、北横宿当役会議、囃子依頼、氏子年番第一連合幹事会議）
・山車飾りつけ、踊り練習、提灯配り
・秋祭第一日（安全祈願祭、北横宿山車出発式、山車乱曳き巡行、例祭神事、御輿発輿式、浜降り、御輿お旅所着輿式、山車夜間巡行）
・秋祭第二日（山車乱曳き巡行、幣台年番引継行事、幣台年番引継神前行事、宵宮祭、幣台年番引き別れ行事、山車夜間巡行）
・秋祭第二日（御輿お旅所発輿式、御神幸、年番前後三町代表巡行、お祭広場山車特別曳き回し、下番の式、御輿年番引継行事、御輿御本社環御祭、山車夜間巡行、北横宿山車終了式）

③「本宿八坂神社夏祭―北総佐原の二つの都市祭礼2―」（DV　二七〇分）
・映像の趣旨
・本宿地区概要（町並、地図、八坂神社、奥宮、古文書）
・準備会議（惣町定例会議、惣町当役長会議、惣町当役会議など）
・下座囃子連中依頼と練習
・山車飾り付け、提灯配り
・鹿島神宮参拝
・若連集会
・獅子衣装合わせと踊りの練習
・神社清掃、奥宮祭と祇園祭
・夏祭第一日目（デボケ、山車巡行、各町の山車、夜の山車巡行）
・夏祭第二日目（新婚祝い、当役交渉、番組定位置、のの字まわし、総踊り）
・夏祭第三日目（三役呼び出し、神事、神輿巡行、浜降り、個人祈祷、神輿年番引継行事）

すでに述べたとおり、資料編をなす②③は現在の佐原の祭礼を将来にわたって比較分析が可能なように、祭礼過程を可能な限り詳細に網羅することに努めた。制作を終了してこの内容を分析すると、いくつかの不十分な点に気がつく。ひとつは、佐原の各町内の祭礼以外の日常生活を多く挿入できなかったかという点である。とくに、各町内の古い商家や酒造工場などの佐原の基礎をなす商工業により注目すべきであった。第二は、古文書、古記録類をさらに多く、しかも効果的に挿入すべきであったことである。祭礼の絵図や新宿の祭礼記録を一部、入れたが、決定的に不十分であった。さらに第三に、佐原の古い映像記録を含めることができなかったことである。佐原には、八ミリフィルムで撮影した映像記録が大量に存在することが確認されているが、これも十分に利用することができなかった。

しかしながら、この映像民俗誌は都市の双分制的構造に注目して作成したはじめての映像記録としての意義は重要である、と考える。佐原と同様に双分制的な構造をもつ都市は、岐阜県高山市や福岡県中津市など、いくつかが確認されている。この意味において、今後は、こうした都市の映像民俗誌の作成が期待されるといえよう。

❺結語

これまでこの研究プロジェクトで作成した佐原の映像民俗誌の制作過程と内容を中心に考察をすすめてきた。映像民俗誌をいかに作成するか、とくに、都市の映像民俗誌をどのように作成するかは、まだ課題の多い分野である。しかしながら、長期間にわたるフィールドワークを経て、映像民俗誌を作成する試みはフィールドワークの内容をあらためて確認する意味や、研究者のもつ理解と現地の人々の理解を確認する意味でも

きわめて重要であると考える。また、現地の人々に映像を提供することによって、調査研究の修正も可能となる。映像民俗誌の制作はそれ自体として意味があるばかりでなく、調査研究をさらに確実にしていく意味で重要である。一九七〇年代以降、人類学において映像記録の重要性が議論されてきたが、映像制作は人類学的研究をより豊かにするひとつの調査研究手段であることは確実であろう。

註

(1) 本稿は、二〇〇年七月二四日開催の基幹研究「日本における都市生活史の研究（第二期）」のB班「都市の地域特性の形成と展開過程―一八―一九世紀の下総地域の内陸舟運と流域都市を中心に―」の共同研究会の報告「佐原の『都市民俗誌』映像資料作成にむけて」、および二〇〇二年二月二四日開催の共同研究会における報告「佐原の都市祭礼の調査と映像資料の作成」にもとづくものである。

(2) 映像民俗誌の意義および「芋くらべ祭の村」の制作にかかわる諸問題については、上野和男・岩本通弥・橋本裕之（一九九二）参照。

(3) 佐原の都市地域特性については、上野和男（二〇〇三）参照。

(4) 最近の民俗映像作成の方法については、孝寿聡（二〇〇四）参照。

文献

孝寿　聡　二〇〇四　「動画像による記録方法の研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』一一七、八一―一〇一

上野和男・岩本通弥・橋本裕之　一九九二　「近江中山の芋くらべ祭―映像民俗誌『芋くらべ祭の村―近江中山民俗誌―』の記録」『国立歴史民俗博物館研究報告』三二、一四一―二四九

上野和男　二〇〇三　「関東の伝統的地方都市の地域特性―川越と佐原を中心に―」『国立歴史民俗博物館研究報告』一〇三、三七五―三八七

（国立歴史民俗博物館研究部）

（二〇〇五年一月一七日受理、二〇〇五年二月八日審査終了）

資料1　佐原の町の二つの祭―八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭―

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
1．佐原の二つの祭	
1．テロップ「この映像資料は――」	■「この映像資料は、千葉県佐原市で毎年行われている二つの祭礼を2001年、2002年の2年にわたって記録したものである。 ひとつの都市が二つの地区に分かれ、ほぼ同規模の祭礼を行っている例は珍しく、この映像は佐原の二つの祭礼を通して、都市祭礼の意味や佐原の町の構造を明らかにしようと試みたものである」。
2．佐原の位置図	■佐原の位置図 ○「千葉県の北部に位置する佐原市」
3．利根川――小野川――正上醤油――杉玉――馬場酒造	■本宿　新宿 ○「佐原は、利根川の流域に位置し、江戸時代以来、利根川から江戸・東京にかけての流通の拠点であり、商業や醸造業などが発達した」。
4．大山阿夫利神社からの俯瞰――佐原全景、忠敬橋、本宿地区、新宿地区。	■本宿 ■新宿 ○「佐原の町は利根川に通じる小野川を境にして、本宿地区と新宿地区にわかれる」
5．夏祭（浜宿番組のの字）。 6．秋祭（桶松前の北横宿）	○「この二つの地区では、祭礼も別々に行われている。本宿には八坂神社が祀られ、7月に夏祭が行われる。一方、新宿には諏訪神社が祀られ、10月に秋祭が行われる」。
7．タイトル――「佐原の町の二つの祭―八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭―」	■タイトル「佐原の町の二つの祭―八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭―」
2．本宿八坂神社夏祭（41'49"）	■本宿八坂神社夏祭
(1)　本宿町並（三菱銀行、久保甚）、本宿地図	■本宿地図 ○「本宿地区は、佐原の町の東半分に位置し、八坂神社の夏祭には12の町内が参加する。このうち山車を出すのは10町内である。12の町内全体は惣町とよばれ、各町は交代で惣町年番と山車年番をつとめる」。
(2)　八坂神社、奥宮	■八坂神社 ■八坂神社奥宮 ○「素盞嗚命を祀る本宿の八坂神社は、本宿の氏神である。八坂神社はもともとこの場所に祀られていたという伝承と、かつては新宿の諏訪神社近くの天王台に祀られていたという伝承がある。現在も天王台には奥宮が祀られている。」
(3)　山車と囃子 ・寺宿山車構造	○「祭のにぎわいの中心は、山車の巡行である。佐原の山車は、四輪のクルマの上に2階建ての構造を持つ佐原型の山車である。2階には人形やつくりものを

・山車の上の囃子下座連

乗せ、１階に囃子方の下座連が乗る」。

・囃子の構成（笛、鉦、太鼓、鼓など）

○「山車には囃子方が乗って、佐原囃子をかなでる。それぞれの町内は、おもに周辺の農村地域にほぼ固定した下座連と呼ばれる囃子方を持っている」。

○「囃子方は、笛、鉦、太鼓、鼓などで構成される」。

・山車隊列（区長―顧問―古役―当役―若連―女性―子供）（浜宿）

○「山車の巡行の先頭には、区長、古役、当役などの各町の役員がつき、山車を曳くのは子供や若連とよばれる若者たちである」。

(4) 惣町定例会議（６月１日）

■惣町定例会議（2002年６月１日）

■山車年番

■惣町年番

・座順、会場全景

○「夏祭の準備のために数々の会議が開催される。とくに重要な事項は、八坂神社社務所で全町内が参加しておこなわれる惣町会議で決定される。この会議は夏祭を統括する惣町年番が主催する」

・山車についての説明――浜宿・飯島区長

・総代の提灯製作についての話し合い

○「山車の巡行についての報告のあと、総代の提灯の作るかどうかについて話し合いが行われた」。

(5) 準備

①獅子衣装合わせ（６月30日）――衣装合わせ風景（着る子供。帯、ハカマ。母親）。獅子頭をかぶせる。笛の演奏に合わせて子供が鼓を打つ。

■獅子衣装合わせ（６月30日）

○「夏祭の前には様々な準備が行われる。本宿の神輿巡行では、三匹獅子が先導するが、その準備として、子供たちの衣装合わせと練習が６月30日に行われた」。

②⑤踊り練習（７月６日）――踊り練習風景、子供に踊りを教える女性、練習する若連。

■踊り練習（７月６日）

○「山車の巡行では手古舞が各所で披露される。浜宿の踊りの練習は７月始め、３日間に亘って行われた。練習を重ねるうちに祭の気分は一挙に高まって行く」。

(6) 奥宮祭と祇園祭

①拝殿注連縄架け替え（７月１日）――拝殿正面

②奥宮祭（７月１日）――鳥居、全景，鳥居前に整列。雨のなかの遠景。神事。

■奥宮祭（７月１日）

○「八坂神社夏祭は、７月１日の奥宮祭から始まる。天王台の奥宮では、神輿年番の船戸区の役員が参列して奥宮祭の神事が行われる」。

③祇園祭（７月10日）――社務所に集まる人たち、拝殿へ。玉串奉奠、社務所の直会

■祇園祭（７月10日）

○「2002年の祇園祭は、山車祭礼に先立って行われた。山車祭礼が現在、７月第２週の週末に行われるのに対して、祇園祭は７月10日に固定されているためである」。

(7) 夏祭第１日目

①浜宿山車準備とデボケ（７月12日）――首をつけ服を着せる。大玉串を山車につける。デボケ料理。酒を飲む若連。高柳当役長が切麻をハンマーにかける。区長あいさつ。さんぎり。拍子木で出発。

■第１日目（７月12日）

○「７月12日、安全祈願祭のあとに、山車の巡行が行われる」。

○「山車の出発に当ってはデボケと呼ばれる出発式が行われる。浜宿のデボケではラッキョウ、梅干、豆腐などが出される」。

○「山車には八坂神社のお札のほか、町によって香取神宮や鹿島神宮のお札がつけられる」。

シークエンス・シーン	○ナレーション ■テロップ
②浜宿山車の巡行――囃子と手古舞。 ・90度回転、テコ棒の使い方、水を撒いて回転。のの字回し(山村会館前)。 ③各町の山車と祭の風景――10の山車。	○（現地音） ■テロップ（町と人形）（それぞれ別テロップ） ・浜宿（武甕槌命） ・寺宿（金時山姥） ・田宿（伊弉那岐尊） ・仁井宿（鷹） ・船戸（神武天皇） ・下仲町（菅原道真） ・上仲町（太田道灌） ・荒久（経津主命） ・本川岸（天鈿女命） ・八日市場（鯉）
④夜の山車巡行――小野川沿いに集まる山車、手古舞	○（現地音）
(8) 夏祭第２日目（番組と総踊り）	■第２日目（７月13日）
・本川岸の新婚の祝い。 ・当役交渉（荒久、船戸、仁井宿）。	■当役交渉 ○「山車が出会った時には、当役どうしが交渉して、順序を決める」
・山車定位置へ停止（番組定位置）に並んだ各町山車)。	○「２日目の夕方、10台の山車が集合してつぎつぎにのの字回しを披露する番組行事が行われる。各町の山車が定位置につく」。
・触れとさんぎり（浜宿、寺宿)。 ・浜宿・寺宿の「のの字回し」 ・小野川沿いに集まる山車と惣踊り。	○「番組では、山車年番の触れとさんぎりの演奏のあと、のの字まわしが行われる。番組行事にはたくさんの観客が集まる」。 ○「のの字回しが終わると、山車は小野川沿いに移動し、総踊りが行われる」。
(9) 夏祭第３日目	■第３日目（７月14日）
①三役が八坂神社へ――神楽宿への使者の口上（１回目)。 神楽宿を出発。浜宿鳥居で獅子、猿田彦と合流して八坂神社へ。	■神楽 ■獅子 ■猿田彦 ○八坂神社夏祭には、三役とよばれる獅子、猿田彦、神楽が参加する。各宿には八坂神社から７度半の使いが出て、呼び出す」。 ○「使いは現在、３回に短縮されている」。 ○「三役は鳥居前で合流して八坂神社に向かう」。
②神事――拝殿に昇る参列者。幕で覆われる拝殿。御霊移しして神輿を降ろ	○「神輿は御霊移しの神事の後、拝殿前に降ろされる。これは、棟梁の指揮で行

す。
・獅子と猿田彦の三遍まわり

・神輿と神楽の三遍まわり
③神輿巡行
・獅子・猿田彦の隊列。
・忠敬橋の浜降り（八坂神社から忠敬橋へ。神輿を据える）。
神事（祝詞）、盛砂、清め。

・小林甚四郎個人祈祷――砂盛、神輿停止、大玉串を贈る。

・火入れ後、夜の神輿巡行
・忠敬橋から大通りを八坂神社に向かう神輿
・八坂神社で三遍まわりのあと本殿へ
④神輿年番引継行事
・各町の高張提灯
・本宮区長あいさつ
・手締め――本宮区長発声。提灯を前にして整列する区長。
⑽　本宿夏祭のまとめ

・本宿年番順序（2002年）

われる」。
○「獅子と猿田彦が先に巡行に出発する。巡行は本殿の周りを右回りに3回まわったあと開始される」。
○「その後神輿と神楽も本殿のまわりを三回まわってから、巡行を開始する」。

■浜降り
○「神輿巡行は、3日目に1日かけて氏子町内全域をめぐるが、その最初に忠敬橋で浜降りが行われる」。
○「現在は橋の上に神輿を据えて行われるが、かつては小野川に浮かべた舟に神輿を乗せて行われた」
○「神輿を据える場所には砂が盛られる」。
○「巡行の途中、町内安全の祈祷や氏子総代などの家での個人祈祷が行われる。個人祈祷では、家内安全を祈願し、当主にはお札が贈られる」。
○「夕方、提灯に火が入れられたあと、夜も神輿の巡行が続けられる」
○「観光客などでにぎわう大通り経て、八坂神社に向かう」
○（現地音）
■神輿年番引継行事
○「神輿は、八坂神社にもどると、拝殿前に各町の役員が集合し、神輿年番の引継行事が行われ、次の町内に年番が引き継がれる」。

○「ここで、これまで見てきた八坂神社夏祭のいくつかの特徴について検討してみよう」
■本宿年番順序（2002年）

浜宿
寺宿
田宿
仁井宿
船戸
下仲町
上仲町
荒久
本川岸
八日市場

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
	○「夏祭には、12の町会が参加するが、このうち山車を所有し、交代で年番をつとめるのは、10の町内である。年番をつとめる順序は図に示すとおりで、この順序は少なくとも明治30年から変わっていない」。
・惣町参会の神輿年番と山車年番の映像	■惣町年番 ■山車年番 ○「現在、年番には八坂神社の神社行事を始めとして祭祀全体を統括する1年交代の惣町年番と山車関係を統括する3年交代の山車年番のふたつがある」。
・各町の役員構成図、山車隊列の映像（浜宿以外）	■浜宿区の2002年度の役員構成図 区長・副区長 役員・相談員 古　役 当　役 若　連 ○「各町の役員は区長を頂点として、相談員―古役―当役―若連で構成される。若連は山車運行の中心となるが、これを終わると当役となる。当役は実務の中心をつとめる。当役を終わると古役、役員、相談員となる」。
・大正10年八坂神社山車番組図（1921年）	■大正10年八坂神社祭礼山車整列略図（1921年） ○「1921年の八坂神社祭礼山車整列略図によると、神輿に続いて各町の山車が巡行する形をとっているが、現在は神輿の巡行と山車の巡行は別々に行われている」。 ○「また、この図によれば、巡行には、三匹獅子、猿田彦も参加している」。
・仁井宿山車、八日市場山車、浜宿の古い山車写真。 〔山車の変遷〕	○「本宿の山車の起源はあきらかでないが、現在のような人形を乗せるようになったのは、明治の終わりから大正時代にかけてである。この時期に各町はシンボルとなる人形を選んだと考えられる」。 ○「仁井宿や八日市場は江戸時代以来のワラで作った鷹と鯉を現在も守っている」。 ○「大正以後人形が変化したのは浜宿ののみで、三番嫂から武甕槌命に変わった」。
・3日間八坂神社に安置される神輿（神輿の詳細映像）。〔御旅所がない説明〕	○「夏祭ではかつて上仲町にお旅所が設けられ、3日間仮宮にまつられていたが、現在、神輿は八坂神社拝殿に置かれたままである」。

3．新宿諏訪神社秋祭（41'49"）	■新宿諏訪神社秋祭
(1) 新宿町並、新宿地図	■新宿地図 ○「新宿地区は、小野川を挟んで佐原の中心部の東部分を占め、にぎやかなJR佐原駅前をはじめとして商業が発達した地域である」。 ○「諏訪神社秋祭には、29の町内が参加し、14台の山車が繰り出す。秋祭の年番にも神輿年番と山車年番がある」。
(2) 諏訪神社映像〔諏訪神社の説明〕	■諏訪神社 ○「新宿の諏訪神社は、もとは［　　］伊能家がまつる神であったが、新宿の発展とともに新宿全体の氏神となったとされている」。 ○「諏訪神社の氏子組織は、現在、29町を４つの連合会に編成し、２年交代で神輿年番をつとめる」。
(3) 準備会議 ・八朔参会（９月１日）――受付、座順、開会（金子氏）、幣台年番・小笠原区長あいさつ、	■八朔参会（2001年９月１日） ○「新宿秋祭の準備のための会議は、８月から開始されるが、もっとも重要な会議は、９月１日の八朔参会である。この会議は伝統と格式を持ち、重要事項は、この会議の承認をうけなければならない。この会議は神輿年番が主催するが、山車年番からの報告も行われる」。
・北横宿当役会議（９月30日）――開会、鈴木当役長の表情、議論。	■北横宿当役会議（９月30日） ○「９月30日、北横宿では当役会議が開かれる」。 ○「2001年度の山車年番をつとめる北横宿区では、実務を担当する当役や若連が会議を重ねて入念に準備をすすめる。各町でも同様の会議が重ねられる」。
・神輿年番第一連合幹事会議（10月４日）――公民館外観、担当割り当て。	■神輿年番第一連合幹事会議（10月４日） ○「10月４日、一方、諏訪神社の神事や神輿巡行を担当する神輿年番でも準備会議が開かれる」。 ○「この会議では、神事や神輿巡行の手順の確認や、仕事の割り振りが行われる」。
(4) 準備 ①潮来下座依頼――北横宿コミュニティセンター到着、鈴木当役長あいさつ、囃子練習、踊りだす若連。	■潮来町コミュニティセンター ○「山車年番・北横宿の囃子方は、利根川を越えた茨城県潮来市の下座連である」。 ○「10月２日、北横宿の区長、当役長などの役員と若連が参加して囃子方を依頼する。新宿各町の下座も周辺の農村が多い」。
②山車飾りつけ（10月７日）――山車蔵から出して北横宿に運ぶ。彫刻掃除。人形胴体をクレーンであげる。ほぼ完成した山車。	■山車飾りつけ（10月７日） ○「10月７日、山車は山車蔵から北横宿町内に運ばれ、山車の飾りつけが行われる。主役は若連たちである」。 ○「北横宿の山車には、みごとな彫刻が飾られる」。 ○「最後に人形の飾りつけをして、この日の作業を終える」

シークエンス・シーン	○ナレーション ■テロップ
③踊り練習（10月7日）――CD、扇を持つ子供、見守る当役長、上からの練習風景。	○「10月7日夜、子供も交えての踊りの練習が行われる。佐倉囃子の録音CDを使って、何度も練習がくりかえされる」。
④提灯配り（10月8日）――石毛区長の家に提灯を配る。	■提灯配り（10月8日） ○「10月8日、町内の役員の家には、提灯やタスキ、記章などが配られる」。
(5) 秋祭第1日	■第1日目（10月12日）
①北横宿デボケ ・大玉串を山車につける。料理。酒をのむ若連。若連頭あいさつ。	○「山車には早朝の安全祈願祭で諏訪神社から受け取ったお札がつけられ、安全を祈願する」。
・ハンマーの上の塩。囃子はじまる。拍子木。山車出発。	○「役員のあいさつのあと、佐原囃子のさんぎりを演奏し、若連の拍子木を合図に山車が出発するのは本宿と同じである」
②北横宿山車町内巡行――チャンカ通りを行く北横宿山車。隊列（古役、当役、子供、女性、若連山車、囃子、山車を押す若連）。指図する若連。 ・カーブを回る。 ・祝儀を受ける。祝儀をメモする当役。	○「第1日目の山車巡行は、各町がそれぞれに巡行する「乱曳き）である。山車の巡行は、まず町内の巡行から始まる」。 ○「カーブを回るときは、テコ棒で車輪を操作する」。 ○「町内の家々では、山車が通ると祝儀をはずむ。祝儀は当役が記録にとどめ、御礼に若連たちが手古舞を踊る」。
・当役交渉（北横宿、上新町）。 ・北横宿の山車の脇を上新町の山車が通る	■当役交渉
③例祭――祝詞。御霊移し。神輿出発。神輿巡行。隊列紹介。先頭役が稲穂を人々に配る。	■例祭（10月12日） ○「10月12日、諏訪神社では例祭の神事が行われる。秋祭は、神事および山車巡行とも現在は10月第2週の終わりに行われる」。
④浜降り――忠敬橋。祝詞。玉串奉奠。 ・神輿が通過するのを待つ北横宿山車。	■浜降り ○「秋祭の浜降りは第1日目、神輿が諏訪神社からお旅所に渡御する途中に行われる。場所は忠敬橋のそばの新宿側である」。 ○「神輿巡行の途中、神輿はしばしば山車と出会うことがある。その場合、山車は道路の端に止めて、囃子など鳴物をつつしみ、静かに神輿の巡行を見送ることになっている」。
・神輿、お旅所へ。お参りする人々。	■お旅所
⑤夜の山車巡行――北横宿山車、夜の巡行。子供の名前の入った提灯。	○「提灯に火を入れたあと、山車の乱曳きは、夜も続けられる」。 ○（現地音） ○「山車には子供の成長を祈って、名前の入った提灯がつけられる」。
(6) 秋祭第2日	■第2日目（10月13日）
①祭の賑わい――にぎわう通り（上からの映像）。にぎわい広場。テント村。にぎわいステージ。	○「秋祭でもにぎわい広場や物産品テント村、にぎわいステージなどが設けられ、町は観光客などで大変なにぎわいである」。

②幣台年番引継行事――下川岸山車第一定位置へ。
・並んだ山車。
・本触れとさんぎり。
・発進触れ（北横宿）。北横宿山車ターンして発進。

■幣台（山車）年番引継行事
○「秋祭では、３年に１度、山車年番の交代行事がおこなわわれる。2001年に北横宿の年番は３年目を迎え、次の下新町に引き継ぐ行事が行われた」。
○「まず、第一定位置とよばれる場所に全町の山車が集合して、引継行事が行われる」。
○「ここでの引継行事は年番から各町への触れを合図に、各町が［さんぎり］を演奏した後、つぎつぎに神輿を出発させる」。

③全町内の山車紹介。

■各町の山車と人形（それぞれ別のテロップ）

北横宿（日本武尊）
下新町（浦嶋太郎）
新上川岸（牛天神）
南横宿（仁徳天皇）
上宿（源義経）
新橋本（小野道風）
下分（小楠公）
仲川岸（神武天皇）
下川岸（素盞嗚命）
上中宿（鎮西八郎為朝）
下宿（源頼義）
東関戸（大楠公）
西関戸（瓊瓊杵尊）
上新町（諏訪大神）

・上新町の山車

○「新宿の山車は、御幣や稲穂、餅などを担いだのが始まりとされる。その後、江戸時代中期に猿田彦に夜具をつけて飾ったのが、今日の人形山車のもとと考えられる。現在のような人形になったのは明治以降である」。
○「新宿の山車の人形は本宿の人形とは異なる。人形はそれぞれの町のシンボルであり、町内意識の原点となる」
○「上新町の山車には、人形ではなくて諏訪大神の鏡が乗せられている」。

③幣台年番引継神前行事――お旅所。高張提灯（全町）。引継行事全景。

■幣台（山車）年番引継神前行事
○「引継行事の２番目は、夕方、お旅所で行われる神前行事である」。

④曳き別れ行事
・北横宿さんぎり。北横宿山車発進。ターンして横宿通りをにぎやかに巡行。当役どうしの拍手。

■曳き別れ行事
○「つづいて、第二定位置とよぶ場所で、全町内の山車が整列して曳き別れ行事が行われる」。

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
・曳き別れ本触れ。下新町山車（浦島）発進。見送り風景（桶松3階カメラ）。最後の北横宿の別れ（「年番ご苦労さまでした」）。	○「この行事ではこれまで年番をつとめた北横宿がさんぎりを演奏して発進し、各町の山車に別れをつげたあと最後列に着く」。 ○「これに代わって新しく年番をつとめる下新町が定位置に移動し、すべての町内の山車を見送る。これで引継行事は終了となる」。
(7)　秋祭第3日	■第3日目（10月14日）
①神輿巡行——お旅所出発。菅井家の前の祈祷。	○「3日目は一日かけて神輿の巡行が行われる」。 ○「巡行の途中、各所で町内祈祷や個人祈祷が行われるのは、本宿と同じである」。
②神輿年番引継行事——大竹家で高張提灯に火入れ。出発。東鳥居から諏訪神社へ。神輿年番引継行事。手締め（諏訪神社方式）。	■神輿年番引継行事 ○「夜、神輿はようやく諏訪神社に戻り、御霊を移したあと拝殿前で神輿年番の引継行事がおこなわれて、神事は終了となる」。
(8)　新宿秋祭のまとめ	○「八坂神社夏祭と比較しながら、諏訪神社秋祭の特徴を検討してみよう」
・参加町内変遷図。	■参加町内変遷図 関　戸──関　戸──東関戸 　　　　　　　　　└西関戸 　　　　└横　宿──北横宿 　　　　　　　　　└南横宿 上新町──────上新町 　　　　　　　　　└下新町 上　宿──────上　宿 　　　　　　　　　└上中宿 下　宿──────下　宿 　　　　　　　　　├新橋本 　　　　　　　　　└下　分 川　岸──────上川岸 　　　　　　　　　├中川岸 　　　　　　　　　└下川岸 中　宿──────中　宿 ○「新宿秋祭の参加町内は、本宿に比べて著しく変化している。これは図にみるように町の構成が激しく変化したからである」
・「関戸郷」の額の写真。	○「これを象徴するのが1934年の関戸郷の分裂と、東関戸、西関戸の誕生である」。
・関戸の山車の分割写真（2枚）。	○「この写真によれば、元の関戸郷の山車は解体され、東関戸と西関戸に分配された」。
・幣台規則	■『幣台規則並割合帳』（1878年） ○「新宿秋祭は長く関戸地区が中心になって行われてきたが、1877年より参加町

内が交代で年番を務める年番制度が確立し、交代で年番をつとめるようになった」。

○「過去には10年以上も同じ町が年番をつとめたこともあったが、1955年以降は、ほぼ3年でつぎの町内に交代している」。

■新宿山車年番順序（2001年）

北横宿
下新町
新上川岸
南横宿
新橋本
下分
仲川岸
下川岸
上中宿
下宿
東関戸
西関戸

・諏訪神社大祭山車番組之図（明治42年）

■諏訪神社大祭山車番組之図（1909年）

○「この山車番組図によれば、明治後期の神輿巡行は三匹獅子が先導し、神輿のあとには各町の山車が続く形となっている。しかし、本宿の行列に加わる猿田彦や神楽は、新宿には見られない」。

4．むすび

・新宿秋祭の最後――夜の山車巡行風景。
桶松前の北横宿と西関戸山車。にぎやかな踊り。

○「江戸時代中頃に現在の形を整えた佐原の祭礼は、その後、かずかずの変遷をとげながらも、基本的には変化なく今日に至っています。佐原の祭礼の大きな特徴は、本宿と新宿で別々に行われてきたことにあります。そこには、佐原の町の歴史が色濃く反映されています」。

・本宿夏祭の最後――浜宿の若者が抱き合う姿。

○「本宿と新宿は、これまで競いあって、にぎやかな祭をつくりあげてきました。八坂神社夏祭と諏訪神社秋祭。ふたつの祭は、佐原を生き生きとした町に築き上げてきた重要な祭礼なのです」。

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
・クレジット	■クレジット 製作　国立歴史民俗博物館 上野和男、宇野功一 構成　松村克弥 撮影　日本シネセル株式会社 撮影協力　蘇理剛志、小笠原尚広 製作協力　インターボイス

資料２　新宿諏訪神社秋祭―北総佐原の二つの都市祭礼１―

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
	〈冒頭テロップ〉 ■「この映像資料は、千葉県佐原市で毎年行われている二つの祭礼のうち、2001年の新宿諏訪神社秋祭を記録したものである。 ひとつの都市が二つの地区に分かれ、ほぼ同規模の祭礼を行っている例は珍しく、この映像は佐原の祭礼を通して、都市祭礼の意味や佐原の町の構造を明らかにしようと試みたものである」。(25秒)。
１．町	
１．利根川	
２．佐原市役所	■佐原位置
３．現代の町並	■新宿
４．歴史紹介――小野川水門、小野川を望む、忠敬橋（新撮）	■新宿地図
５．山車番組図	■諏訪神社大祭山車番組之図（1909年）
６．山車古写真――関戸郷	■関戸郷額
７．幣台規則――2002再度撮影	■「幣台規則並割合帳」(1878年)
８．北横宿――町名ズームアップ必要、2001年北横宿。音はあった。	
９．タイトル――北横宿の山車がバック。夜の山車。赤いタイトル。	■「新宿諏訪神社秋祭―北総佐原の二つの都市祭礼１―」
２．八朔参会（９月１日）	■八朔参会（2001年９月１日）
１．受付	○「諏訪神社秋祭の内容は、参加する全町内が一堂に会した八朔参会で決定される」
２．座順	
３．会場スケッチ――参加者アップ	
４．開会――金子氏	■神輿年番・第一連合幹事長
５．幣台年番あいさつ――小笠原氏。惣町参加が決定したとの報告。前後三町あいさつ。	■幣台年番・北横宿区長
６．穂しワラつくり	
３．幣台区長当役長会議（９月８日）	■幣台区長当役長会議（９月８日）
１．司会あいさつ	○「秋祭の運営の詳細は、各町の実務担当者である当役長の会議で決定される」
２．開会の辞――前年番、上新町区	
３．決算報告――座順を示す。山車の説明に換える。	
４．意見――保険について。	

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
5．手締め――後年番。全員席を立つ。一本締め。	
4．当役会議（9月20日）	■当役会議（9月20日）
1．集まるところ	○「秋祭の具体的な内容について、各町の当役が集合して確認する」
2．司会あいさつ	
3．開会あいさつ――前年番、上新町区	
4．特別曳き回しについて――座順。座順の絵に山車についての説明をかぶせる。	
5．曳き回しについての説明――座順	
6．ケータイについて――座順	
7．各町内半纏のいくつか	
8．直会――乾杯は佐原町議会議長	
9．会場配置図――半纏、各列を写す。	
10．焼酎サーバー	
11．北横宿当役の接待風景	
5．北横宿当役会議（9月30日）――北横宿祭事役員会	■北横宿当役会議（9月30日）
1．司会あいさつ	
2．若連からの説明――伊能、玉田	
3．特曳きについて――当役、鈴木さんの説明。	○「山車巡行の責任を持つ幣台年番・北横宿では、入念な打ち合わせが繰り返される」
4．議論――役員の順番についての質問と注文。「はい、わかりました」。書いて連絡して下さい。	■幣台年番・北横宿若連頭
5．10月2日、商工会議所50周年、東関戸山車巡行――山車、囃子、若者、娘たちのワッショイ。	
6．潮来囃子依頼	
1．コミュニティセンター玄関	■潮来市コミュニティセンター
2．北横宿がクルマで到着、2階へ	■囃子依頼（10月2日）
3．鈴木当役長のあいさつ――「こんばんは」。よろしくお願いいたします。	
4．下座長あいさつ――「年番町」の下座をつとめることは光栄」	○「北横宿の山車には、利根川を越えた茨城県潮来町の下座連が囃子方として乗る」
5．乾杯――清川	
6．座順	■幣台年番・北横宿当役長
7．若連と囃子の打ち合わせ、情報交換	
8．囃子曲披露――ぶっつけ本番でお願いします。「さんぎり」。各パート。踊	

りだす。
9．別れの場面――下座長にあいさつ

7．第一連合幹事会議（10月4日）――西関戸公民館
1．公民館外観、全景
2．金子氏あいさつ
3．浅野幹事長あいさつ
4．金子氏が祭のスケジュールを読み上げる。
5．担当割

■神輿年番第一連合幹事会議（10月4日）
○「幣台年番とは別に神輿年番がある。4つの連合会が2年交代でつとめる」
■神輿年番・第一連合会幹事長

8．北横宿山車飾りつけ（10月7日）
1．山車蔵から山車を引き出す
2．北横宿に運ぶ――ハンマーを取り替える。
3．山車を使って横宿通りの道幅を測定――メジャーを使用。
4．図面に書き込む若連
5．駐車場へ――山車会館からもってくるところはカット。
6．ハンマーをとり返る
7．彫刻などの箱の搬入――箱を開く。明治8年の年号が書いてある。
8．新入の若連たちによる彫刻の掃除
9．若連が鈴木当役長に相談――彫刻を止める銅線
10．彫刻をはめ込む――鈴木当役長の指示。銅線で留める。
11．クレーンで人形の胴体を吊り上げる――人形と台座をしばる。
12．カシラをハシゴで上げる――カシラ。服を縫い付ける（玉田）。
13．手を上げる――手をつける。
14．カシラの覆いを取る――銀飾をつける。
15．額を上げる――額の座布団に文句をつけ、自らやる当役。
16．ほぼ完成した山車――彫刻アップ
17．踊りの練習（駐車場）――CD、扇を持つ子供、見守る当役長、山車の上から撮った練習風景

■北横宿山車飾りつけ（10月7日）

■踊りの練習（10月7日）

8―2．提灯配り――石毛区長の家。

■提灯配り（10月8日）
○「役員の家には、提灯、記章、タスキなどが配られ、祭礼への参加を要請する」

9．秋祭第1日（10月12日）
(1) 安全祈願祭（諏訪神社）

■第1日目（10月12日）
■安全祈願祭（諏訪神社）

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
1．北横宿山車	○「山車巡行の安全を祈願する安全祈願祭が、幣台年番の主催で行われる」
2．諏訪神社	
3．各町当役長が参列	
4．司会あいさつ	
5．お祓い場面を入れる――参加者がよくわかる。幣台区長、当役長、当役など。	
6．小笠原区長玉串奉奠――各町の配置	
7．鈴木当役長玉串奉奠――各町当役も拍手	
(2)　北横宿デボケ	■デボケ（北横宿）
1．北横宿テント――ご神符を出しにつける。	○「山車出発式では、佐原囃子のさんぎりの演奏のあと、拍子木を合図に山車が出発する」
2．駐車場の山車の前――刺身、ビールをのむ若連、金額札	
3．小笠原祭事区長あいさつ	
4．下座会長あいさつ	
5．若連頭あいさつ	
6．石毛区長乾杯	
7．ハンマーの上の塩	
8．囃子始まる	
9．拍子木	
10．山車が動き始める	
(3)　北横宿山車町内巡行(1)	■北横宿山車巡行
1．古役、当役、子供、女性、若連、山車、囃子、山車を押す若連――チャンカ通りを行く	
2．指図する若連	
3．電線を上げる	
4．カーブをまわる――木内旅館あたり。指図する若連。テコ棒１本でまわる。	
5．祝儀を受け取る――さっそくお礼の手古舞。テコ棒を１本立てて踊る。手古舞。いろいろなハチマキ。	○「山車が通ると、町の人々は祝儀を出す。御礼として手古舞が舞われる」
6．祝儀をメモする当役	
7．若連の拍子木で踊りを終了	
8．ソロバン曳き――（蘇理君の音を入れる）。	■算盤曳き
(4)　例祭	■例祭（10月12日）
1．祝詞――伊能宮司。テント配置。	
2．御霊移し	

3．神輿出発――ご神幸。クルマの上の神輿。	
4．ご神幸一行スケッチ――宮司のクルマまで。	■神輿ご神幸
5．先頭が諏訪神社の稲穂を人々に渡す――門柱の上に置く。子供にあげる。「ありがとう」。	
(5) 北横宿山車町内巡行(2)	
1．当役交渉――当役が若連に伝える。繰り返し交渉。休憩についての交渉。北横宿、西関戸、上新町。結局、鳴り物をやめて休憩。	■当役交渉 ○「いくつかの山車が出会った時は、当役どうしが交渉して、優先順位を決める」
2．北横宿の脇を上新町の山車が通る――上新町の脇を北横宿が通る。拍手。	
(6) 神輿浜降り	■浜降り
1．忠敬橋――中村屋前、神主、クルマから降りる。	○「諏訪神社を出た神輿は、お旅所に行く途中、忠敬橋の近くで浜降りの儀礼を行う」
2．祝詞――伊能宮司。浜降りの文句。	
3．紋付姿の2人――拍手。	
4．お神酒を下げる	
5．神輿と北横宿の山車が出会う――神輿が通過するのを山車が待つ。	
6．神輿がお旅所に到着	■諏訪神社お旅所
7．後からお旅所に入る様子	
8．賽銭を上げる	
(7) 夜の山車巡行	
1．北横宿山車	
2．東関戸の娘たちのワッショイ――小野川沿いの巡行	
3．（追加）子供の名前の入った提灯――男の名前の提灯。	
10．秋祭第2日目（10月13日）	■第2日目（10月13日）
(1) 祭のにぎわい	
1．佐原駅で記念写真撮影	
2．にぎわう通り――上からのカメラ撮影	○「町は観光客でにぎわう。大祭実行委員会によるテント村なども設けられる」
3．にぎわい広場	
4．テント村――いもアイス	
5．にぎわいステージ	
(2) 幣台年番引継行事（第一定位置）	■幣台年番引継行事
1．各町山車第一定位置へ	○「3年ごとの幣台年番引継行事は、定位置に全町の山車が整列して行われる」
・下川岸山車――北横宿の当役が定位置を確認。	
・仲川岸山車――当役が細かく位置を確認する。確認したことをあいさつ。	■準備触れ
・下分山車――トランシーバーで連絡。	■本触れ
2．定位置に並んだ山車――法界寺方向を望む。山車がいっぱい。	○「幣台当番町からの準備触れ、本触れのあとさんぎりが演奏される」

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
3．準備触れ――「本触れをお待ち下さい」。1、2、3、4（東関戸）。 4．北横宿のさんぎり――北横宿どうしのさんぎりなし。 5．本触れとさんぎり――1（よくない）、2下分（少し長めに）、3新橋本（入れる）。	
6．発進触れ――北横宿。拍子木。テコ棒をはずす。 7．北横宿山車ターンして発進 8．つぎの町内へ発進触れ――発進。 9．北横宿山車ガソリンスタンドをまわる 10．つぎの町内の山車の進行を見て、次の町内へ発進触れ――そして見送り 11．当役が交代して発進触れ 12．ターンする山車――ガソリンスタンドを上新町へ	○「発進触れのあと、各町の山車が発進する」
13．全町内の山車紹介――人形中心。	■各町の山車と人形（それぞれテロップ） 北横宿（日本武尊） 下新町（浦嶋太郎） 新上川岸（牛天神） 南横宿（仁徳天皇） 上宿（源義経） 新橋本（小野道風） 下分（小楠公） 仲川岸（神武天皇） 下川岸（素盞嗚命） 上中宿（鎮西八郎為朝） 下宿（源頼義） 東関戸（大楠公） 西関戸（瓊瓊杵尊） 上新町（諏訪大神）
14．下新町山車の人形カシラの挿げ替え――夕方。レプリカから本物へ。	
(3)　幣台年番引継神前行事――お旅所 1．お旅所仮宮 2．高張提灯―― 3．幣台年番引継神前行事全景 4．北横宿・小笠原区長あいさつ	■幣台年番引継神前行事 ○「お旅所でも、全町内の役員が参加して年番引継の神前行事が行われる」

5．受年番のあいさつ
6．手締め――諏訪神社方式

■受年番あいさつ

(4) 行事
1．準備触れ――1（北横宿）、2（上新町）
2．本触れ――1（北横宿）。本触れは準備触れの途中で始まる。
3．北横宿さんぎり――2（上新町）。さんぎり終了のあいさつ。
4．つぎの町内のさんぎりへ――上川岸区。終了のあいさつ。
5．南横宿さんぎり
6．北横宿山車の発進――伊能若連頭が拍子木。ターンして進行。「年番ごくろう様でした」。他町の拍手。当役どうしの拍手。花吹雪。すれちがい大通りでのターン（蘇理君の映像）。
7．曳き別れの触れ
8．下新町からの準備触れ――1、2、3
9．下新町のさんぎり
10．本触れ――「通しさんぎりをお願いします」（牛天神）。
11．浦島（下新町）の発進――曳き別れ位置へ。桶松前。
12．発進触れがつづく
13．見送り風景――1（牛天神）から次々に。桶松2階からのカメラ。
14．最後の北横宿の別れ――「年番ごくろう様でした」。
15．下新町山車のの字回し――桶松前。竜宮城。

■曳き別れ行事
○「町ではふたたび全町の山車が集合して、はなやかに曳き別れの行事が行われる」

■発進触れ

■のの字まわし

11．秋祭第3日目（10月14日）
(1) 神輿巡行(1)
1．神輿がお旅所を出発――一行のスケッチ。諏訪神社の大鳥居をくぐる。ベンツに乗った宮司。
2．菅井家の前の祈祷――座敷の接待風景。小野川沿いへ。
3．伊能家の祈祷――伊能家当主も参加。
4．惣代祈祷――清宮家。庭での接待。座敷での接待。
(2) 年番前後三町代表巡行
1．小野川沿いを行く上新町山車――小野川水門へ。サッパ舟。
2．三町の山車の定位置での儀礼――さんぎり（下新町）。
3．北横宿山車発進――山車を見る周辺町民
4．祈祷――盛土、祝儀、一礼拍手。
(3) 山車特曳き――特設会場
1．特曳き会場風景

■第3日目（10月14日）

■神輿巡行

■町内祈祷
○「神輿巡行では、町内の祈祷や氏子総代などの安全を祈願する祈祷が行われる」

■年番前後三町代表巡行

■山車特曳き
○「コミュニティ広場では、全町の山車を揃えて観光客に向けての特曳きが行わ

シークエンス・シーン	○ナレーション ■テロップ
2．市民が引く北横宿山車	れる」
3．下番の式――年番提灯を受け渡す	
4．テコ棒贈呈――	
(4) 神輿巡行(2)	
1．大竹家で高張提灯をかざる	
2．神輿が大竹家へ――神輿に同行した人たちにドブロクを振舞う。今は甘酒。	
3．火入れ――若連。	
4．整列	
5．出発――小野川沿いを行く。小野道風に出会う。	
6．夜の提灯	
7．東の鳥居をくぐって諏訪神社へ	
8．御霊移し――本殿へ	■御霊移し
(5) 神輿年番引継行事	■神輿年番引継行事
1．提灯	○「この行事によって神輿年番は、第二連合に引き継がれる」
2．手締め	
(6) 秋祭のフィナーレ	
1．夜の山車巡行風景――2、3台ずつ。	
2．桶松前の風景――北横宿と西関戸山車を中心にたくさんの観客。花吹雪。	
3．そろばん曳き	
4．北横宿山車駐車場へ	
5．駐車場で最後の踊り	■クレジット
	製作　国立歴史民俗博物館 上野和男、宇野功一 構成　松村克弥 撮影　日本シネセル株式会社 撮影協力　蘇理剛志、小笠原尚広 製作協力　インターボイス

資料３　本宿八坂神社夏祭―北総佐原の二つの都市祭礼２―

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
	〈冒頭テロップ〉 ■「この映像資料は、千葉県佐原市で毎年行われている二つの祭礼のうち、2002年の本宿八坂神社夏祭を記録したものである。 ひとつの都市が二つの地区に分かれ、ほぼ同規模の祭礼を行っている例は珍しく、この映像は佐原の祭礼を通して、都市祭礼の意味や佐原の町の構造を明らかにしようと試みたものである」。
１．本宿	
１．俯瞰――ジャージャー橋から利根川を望む、新宿から本宿へ、忠敬橋	■佐原の位置
２．忠敬橋から小野川、三菱銀行	■本宿
３．正上醤油、久保甚、町並――歴史紹介	■本宿地図
４．八坂神社――本殿、浜宿鳥居、八日市場鳥居、山車会館	■八坂神社
５．山車番組図――大正５年	■八坂神社祭礼山車整列略図（1921年）
６．山車古写真――浜宿、船戸	■浜宿山車の古写真 ■船戸山車写真
７．祭礼古文書――文政５年「牛頭天王修復」	■八坂神社文書（文政５年）
８．タイトル――のの字まわしバック	■タイトル「本宿八坂神社夏祭―北総佐原の二つの都市祭礼２―」
２．惣町定例会議（惣町会議）（６月１日）	
１．出迎え風景――玄関から会場へのパーン	■八坂神社社務所
２．座順、会場スケッチ	■惣町定例会議（2002年６月１日）
３．開会――石井区長代理。本宮区長のあいさつはなし。	○「八坂神社夏祭の重要事項は、全町が参加する惣町会議で決定される」
４．資料確認	
５．神輿巡行経路についての説明	
６．山車についての説明――浜宿・飯島区長――例祭として実施。乱曳き。番組行事をやること、総踊りは昨年の５ケ所から４ケ所にする。本宿側２、新宿側２。	■山車年番・浜宿区長
７．記章についての説明――総代は別の記章。拍手で合意。	■惣町年番・船戸区長
８．会場からの質問、意見――新宿の会議より、よく意見が出る。寺宿から「総代の提灯を作ったらどうか」との提案。氏子総代・山崎氏の意見。	
９．惣町会議終了――懇親会は別会場。	

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
3．惣町当役長会議（6月2日）――はな芳	
1．潮来のアヤメ	
2．はな芳外観	
3．座順――資料に目を通しているところ	■惣町当役長会議（6月2日）
4．進行役あいさつ――木内氏	
5．飯島区長あいさつ――「3日間事故なく」。すぐ退席	
6．各町内の当役長あいさつ、自己紹介――寺宿から。当役長のあいさつ。	
7．資料の読み上げ	○「祭礼運営の詳細は、各町の当役長による会議で検討される」
8．やりとり	
9．高柳当役長の説明――記章・提灯の件、これで討議は終了。	■山車年番・浜宿区当役長
10．乾杯――後年番・寺宿当役長	
4．惣町当役会議（6月7日）――八坂神社社務所	
1．社務所外観――出迎え風景	
2．座順――当役を順次。半纏で町内がわかる。	■惣町当役会議（6月7日）
3．飯島区長あいさつ――神輿と乱曳きの件。区長退席。	
4．高柳当役長あいさつ	
5．資料読み合わせ――舘岡氏。資料をめくる当役たち。	
6．やりとり――「下仲町が7年ぶりに参加するのでよろしく」	
7．乾杯――寺宿の当役が音頭。	
5．惣町神輿年番前後三町、三役合同会議（6月9日）――八坂神社社務所	
1．社務所外観――出迎え風景	
2．座順――区長と三役が出席。三役は三人づつ。座順に注意。	■惣町年番前後三町・三役合同会議（6月9日）
3．本宮区長あいさつ	
4．獅子会の打ち合わせ――続いて神楽、猿田彦の打ち合わせ。予定表に記入。	
5．三役の予定表	
6．八日市場からの質問――高張提灯の集め方についての議論。元宮区長の回答。	○「夏祭に参加する獅子、猿田彦、神楽の三役も打ち合わせに参加する」
7．10日の使者の数についての質問――3人でいい。	
8．直会――前年番・仁井宿区長が音頭。「三役さまのご協力で――」。	
6．下座依頼（6月27日）――与倉公民館	
1．飯島区長が自宅を出発する	

2．与倉に向かうクルマ	■囃子依頼（6月27日）
3．与倉公民館	■与倉区公会堂
4．与倉公民館に到着、入る	
5．会場内部のスケッチ――資料を見る囃子たち。浜宿から依頼にきた人々。	
6．飯島区長あいさつ――酒と金を贈る	○「各町では、おもに周辺農村に佐原囃子の下座を依頼する」
7．高柳当役長のあいさつ――	
8．若連頭が神輿巡行経路について説明――正座で聞く囃子連中、浜宿の人たち。	■山車年番・浜宿区若連頭
9．打ち合わせ終わる――「よろしくお願いします」。	
10．直会――ビールを注いだ後、下座長のあいさつ、乾杯。浜宿全員に注いだあと、囃子連中に浜宿のひとが酌。懇談全景。	
11．囃子練習風景――楽器を整える。演奏する下座連、聞く浜宿の一行。太鼓、小太鼓、笛、鉦、鼓など。	■与倉芸座連
12．ラジカセ2台――囃子を録音する。	
13．与倉下座連の袋、提灯	
7．山車飾りつけ、提灯配り他（6月30日）――神社清掃はなし	
(1) 山車飾りつけ	
1．水田風景	
2．浜宿山車蔵を開ける――集合する若連たち。	■浜宿山車飾りつけ（6月30日）
3．若連頭あいさつ――「かたぶき、真鍮磨き、テコ焼きをよろしく」。	
4．かたぶき――若連、少女	
5．テコ焼き――利根川べりの木工工場	■テコ焼き
・縄を丸くしたものをテコ棒の先に取り付ける。	
・縄5本幅を空けて、縄を巻く。	
・バーナーでテコ棒を焼く――水をかける若者。テコ棒をまわしながら焼いていく。	
・縄をはずす	
・焼いた部分を縄をこすって磨く	
・焼いたテコ棒を並べる――新旧4本。「新品は綺麗だ」。	
6．山車を蔵におさめる	
(2) 提灯配り	
1．JR特急	
2．若連宿外観	■浜宿区若連宿
3．提灯準備――ビニールに入れる。さまざまな種類の提灯（絵書きなど）。	○「町内の役員には、若連によって提灯、タスキなどが配られる」

シークエンス・シーン	○ナレーション ■テロップ
タスキ、記章。	
4．雪駄の分担――頭が指示	
5．配るものの準備――記章など。	
6．若連の先輩が後輩にテコの扱い方を指導	
7．提灯をクルマに乗せる。雪駄も乗せる。2軒程度。	
8．提灯配り――配る家と配る物を確認。2軒程度。若連頭の家。2軒目では提灯とタスキを渡す。	
(3) 鹿島神宮へ参拝	
1．鳥居をくぐって参道をゆく	■鹿島神宮
2．祈祷受付で受付をすませる――初穂料をおさめる。	○「浜宿区では、山車に飾るお札を貰うために鹿島神宮に参拝する」6
3．拝殿に昇る	
4．お祓い	
5．お札、酒などを神官から受け取る――香取区長	
6．受け取ったもの――大祓人形、お札、酒	
7．クルマで帰る	
(4) 若連集会（魚市場）	
1．若連があつまる風景――イス席につく。書類を見る。	■浜宿区若連集会
2．若連頭のあいさつ	
3．各係長のあいさつと説明――弁当係、お菓子係の説明。	
4．女性たちに「にぎわい広場」での踊りを依頼	
(5) 獅子会衣装合わせ（八坂神社社務所）	
1．集合風景――母親たちが社務所前に集まる。	■八日市場区獅子衣装合わせ
2．獅子の道具箱――明和4年の銘がある。衣装。	
3．子供たちが待機しているところ――足袋を合わせる。	
4．青柳八日市場区長あいさつ――子供たちを激励。「歩きぬくように――」。	○「衣装合わせでは、子供たちに服を着させて、鼓を打つ練習をする」7
5．獅子会長あいさつ――明和4年以降始まる。神輿の露払い。	
6．衣装合わせの風景――協議員が指導。着る子供。帯をしめる。ハカマを履く。手伝う母親。タスキをかける。着終わった2人の子供。鼓をつける。	
7．獅子頭をかぶせる――獅子頭をかぶった3人。	
8．笛の椎名氏来る	
9．笛の演奏に合わせて子供が鼓を打つ――見つめる区長、協議員、母親。	
8．神社清掃、奥宮祭、惣町参会（7月1日）	
(1) 神社清掃、神輿準備	

1．神輿準備――神輿を蔵から出して拝殿にあげる。岡野棟梁指揮。神輿を磨く。鐘をはずす。
2．連縄張り――3ケ所。拝殿正面（幣束をつける、船戸区役員）、末社（本宮区長）。浜宿鳥居。

■神輿準備（7月1日）

(2) 奥宮祭
1．奥宮――全景、鳥居前に整列。雨の中の遠景、八坂神社奥宮の石。祠（享保5年の年号も入れる）。
2．供物を用意する宮司――酒、塩、野菜、果物など。
3．宮司が祠にお札を入れる――八坂神社のお札と幣束。
4．神事――参列者、祝詞、玉串奉奠（区長代理・石井氏など）。
5．祠のなかのお札
6．閉扉
7．直会――酒を配る。
8．塩と酒をまく――四隅。石井区長代理。玉串を四隅に立てる。

■奥宮祭（7月1日）
○「新宿の天王台に八坂神社の奥宮があり、夏祭に先立って奥宮祭が行われる」

(3) 惣町参会――八坂神社社務所
1．新しくなった注連縄――浜宿鳥居、拝殿、社務所。
2．座順――各町内の木札と参加者（各町2人）の顔。資料を見る参加者。向洲、八ッ坂会、神楽、猿田彦、獅子、氏子総代副会長（2人）、氏子総代会長、来賓、宮司。
3．本宮区長あいさつ
4．氏子総代会会長あいさつ――山崎氏
5．資料確認――神輿巡行経路
6．提灯についての質問――本宮区長宅に届ける回数を1回にできないか」
7．本町は今年も出しを出さないとの報告――本宮区長。「例年どおりのつきあいにしてくれ」。酒が届いたとの報告。
8．乾杯――あいさつは仁井宿。料理が出される。

■惣町参会（7月1日）
○「惣町会議では、年番を勤める順に各町が着座する」
○「夏祭の準備会議は、三役も加わった惣町参会ですべて終了する」

9．踊り練習（7月6日）――魚市場
1．ジャージャー橋から水が落ちる
2．踊り練習、魚市場ロング――半纏をつけた男女の若連、子供。
3．与倉公民館で録音したテープを流す――「与倉おどり」と記されたテープ。
4．子供たちに踊りを教える女性たち――魚市場の内と外。女性と子供が中心。踊り風景。
5．参加した子供にお菓子を配る
6．扇子を売る――1本、1,500円。扇子を買う女性。

■浜宿踊り練習（7月6日）

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
7．残って練習を続ける若連たち――若連が中心。子供は帰る。対面して踊る。 8．若連頭のあいさつ――「3日間ご苦労さまでした」。	
10．祇園祭（7月10日） 1．大榊 2．高張提灯 3．社務所に集まる人たち――注連縄、神木、御祓所 4．使者が神楽宿に向かう――テントでの準備。 5．使者のあいさつ――小林家の縁側に神楽会が整列。使者は紙に書いた口上を読む。「届け物を持参しました」 6．献饌料とお神酒 7．使者が八坂神社に戻る 8．参列者が手洗い――香取神宮の献幣使、八坂神社宮司。手伝い神官3人。 9．社務所から拝殿にのぼる参列者 10．御祓い――着席。司会あいさつ。参列する各町内代表。 11．献饌――1つか2つ。酒、果物。 12．祝詞――八坂神社宮司。 13．玉串奉奠――1つか2つ。宮司、氏子総代、氏子会長 14．拝殿における直会――列席者に酒が配られる。氏子総代会会長・山崎氏、本宮区長。 15．社務所における直会――拝殿から社務所へ。社務所の直会のスケッチ。 16．本宮区長のあいさつ 17．乾杯――あいさつは谷田貝代議士 18．日章旗が掲げられた拝殿	■祇園祭（7月10日） ○「夏祭に参加する獅子、猿田彦、神楽の宿には、年番から使者が行く」10 ○「2002年の祇園祭は、7月第2週末の山車祭礼の前に行われた」11
11．夏祭第1日（7月12日） (1)　浜宿山車準備 1．小野川沿いの風景 2．山車蔵から浜宿踏切近くへ――浜宿踏切を越える。準備位置に停止。 3．人形頭を山車に上げる 4．スダレの箱――スダレを掛ける 5．山車の四隅にサラシを巻く 6．人形に首をつけ、服を着せる 7．山車に飾られた新婚祝賀の提灯	■第1日目（7月12日）

8．人形に数珠を巻く
9．鹿島神宮のお札をくくりつける――向かって右側（のちに左側に移す）。
10．人形に首飾りをつける
11．トラックに乗って下座を迎えに行く一行

(2) 安全祈願祭

1．拝殿に集まる参列者――席順。
2．浜宿・飯島区長のあいさつ
3．司会の開会の辞
4．修祓
5．飯島区長、高柳当役長、若連頭の玉串奉奠――そろって玉串奉奠。
6．各町内にお札配布――酒を頂いたあとお札を受け取る。

■安全祈願祭（八坂神社）
○「山車巡行の安全を祈る安全祈願祭は、山車年番の主催で行われる」

(3) 神楽組み立て――小林家

1．神楽道具箱を開く――そのまま神楽の台車に乗せる。
2．神楽飾りを組み立てる
3．御幣を立てる――写真を見ながら作業をすすめる
4．神楽の覆いの組み立て――金属製の枠。
5．金属枠に幕を取り付ける
6．小太鼓、鼓を乗せる
7．完成した神楽
8．鼓をあったいてみる――笛も加わる。

■神楽の組み立て（浜宿区）

(4) 八日市場デボケ――山車会館、西関戸立会い

1．山車会館に関係者が集まる――西関戸、八日市場が対面して整列
2．山車会館館長のあいさつ
3．八日市場・青柳区長のあいさつ
4．西関戸・金子区長あいさつ――八日市場区長と若連頭に酒を贈呈。
5．山車を会館から出す
6．お札を山車に取り付ける
7．山車を青柳区長宅前まで移動
8．デボケ
・コップに酒を注ぐ
・紙（切麻）、塩を撒く
・青柳区長あいさつ――「愉快に楽しく――」
・乾杯――斎藤区長代理。「車軸と車輪を今年、新調した」
・ラッキョウ――黄色とオレンジ色の二種
・当役長あいさつ

■デボケ（八日市場）
○「八日市場の山車は、1年間展示されていた山車会館で出される」
○「山車の出発にあたっては、デボケとよばれる出発式が行われる」

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
・若連頭あいさつ	
・さんぎり	
・拍子木を打つ若連頭	
・綱を出す	
9．出発――山村会館方面に出発。	
(5)　浜宿デボケ	
1．与倉下座連を乗せたクルマが浜宿方向に向かう――囃子をやりながら、浜宿山車準備位置に到着。14	■浜宿デボケ
2．与倉下座連がおりる	
3．ベッカムヘアーの若連	
4．若連頭が大玉串（お札）を持ってくる――八坂神社札を右、鹿島神宮札を左にくくりつける。	
5．デボケ――酒を注ぐ。それぞれに酒を飲む若連。	○「デボケの食べ物は町によって違うが、ラッキョウ、豆腐、梅干しが多い」
6．肴――ラッキョウ、梅干、瓜漬物、豆腐。豆腐を食べる若連。	
7．酒を飲む女性たち	
8．高柳当役長がハンマーに紙（切麻）をかける	
9．飯島・浜宿区長あいさつ――「見本となるように――」	
10．若連頭あいさつ――「水分をよくとるように――」	
11．さんぎり――若連の歓声	
12．拍子木が鳴らされる	
13．出発――回転して町内へ。テコで回転させる。	
(6)　浜宿山車巡行	
1．山車の隊列――先頭から区長、当役、子供、女性、若連、古役	■浜宿山車巡行
2．浜宿の歌を歌う若連	
3．囃子	
4．拍子木を打つ――テコ棒を出して手古舞	
5．上から見た手古舞――ベッカムヘアー、子供	
6．御礼金のチェック	○「山車が通ると、町の人々は祝儀を出す。御礼として手踊りが踊られる」
7．活躍する若連頭	
8．電線をあげて巡行する山車	
9．浜宿踏切通過――人形に布を巻いてはずす。電車を待つ山車。踏切通過。人形を元に戻して巡行。	
10．目印に若連が足を立てて90度回転する――振動するハンマー	
11．水を掛けて滑りやすくする	

12. のの字回し――山村会館前。扇子で目標を指示する。拍子木を合図に「のの字まわし」。	■のの字廻し
(7) 八日市場の山車巡行	
1．信号機を動かす。	■八日市場山車巡行
2．ご祝儀――当役長が受け取る。	
3．祝儀を出した家に御礼の手古舞を披露	
4．手古舞――女性、男性	
5．八日市場町内で始めて山車が通る地区の風景――ビール、ジュースでもてなす	
(8) 他町会の山車と祭の風景	
1．小林甚四郎家の前を巡行する上仲町山車	■各町の山車巡行
2．船戸、浜宿、本川岸、田宿、寺宿、荒久、仁井宿	
3．小野川沿いを行く山車――浜宿。山車の後を女性たちが押す。替え歌。小野川橋上での手古舞	
4．サッパ舟上の囃子――潮風会囃子連	
5．初日巡行しない下仲町の山車――布をかぶせた裁判所前の下仲町の山車	
6．八坂神社前を通過する山車	
7．八坂神社神社境内のかずかずの出店	
8．八坂神社に参拝する母子	
9．物産品テント村――おみやげ品	
(9) 夜の乱曳き	
1．山車灯入れ――浜宿。山車会館裏。	
2．新婚祝賀の提灯	○「夜の山車には結婚を祝う提灯や、子供の成長を祈願する提灯が飾られる」
3．乱曳きの風景――浜宿。にぎわいステージで踊る浜宿の女性たち。	
4．小野川に写る山車――忠敬橋→小野川沿い。替え歌。	
5．踏切近くを巡行する2台の山車	
6．小野川沿いに集まる山車――すれ違う	
7．山車子供の名前を書いた山車提灯	
8．手古舞――荒久。歓声につつまれる踊り。水をかける若者。	
9．本川岸山車、第1日最終地点に到着――歓声のなか拍子木の音で停止。提灯をはずす。	
(10) 浜宿下座連宿・当役宿への挨拶	
1．若連宿に到着した浜宿山車	
2．下座連宿へのあいさつ――若連頭「明日もよろしく」。下座長に酌をする若連頭。高柳当役長もあいさつのあと酌。	○「山車巡行が終わると、若連頭は下座宿や当役宿へあいさつに出かける」

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
3．当役宿へのあいさつ――拍手で迎える当役。若連頭あいさつ。当役が若連頭に酌。「頭一杯やって下さい」。若連頭が区長に酌をする。他の当役にも酌。	
4．若連宿前の山車	
12．夏祭第２日（７月13日）	
(1)　下仲町山車デボケ	
1．下仲町山車に集まる若連たちデボケ	■第２日目（７月13日）
2．小森氏の社員の参加　・	■下仲町山車デボケ
3．切麻を蒔く若連頭	○「下仲町は町内規模が小さく、若連も少ないので、２日目から巡行が開始された」
4．豆腐を食べる沢山の若連	
5．巡行に出発	
(2)　本川岸デボケ	
1．小野川風景	
2．豪華な料理が出される――ラッキョウ（２色）、豆腐、瓜漬物、ハム	■本川岸区デボケ
3．出発	
4．新婚夫婦の祝い――手古舞。「健太郎君のお祝いです」「５月に結婚しました。妻の紀子です」。 花束贈呈。クラッカー。新妻の酌	
5．本川岸の山車巡行――山車の隊列を示す。	
6．当役交渉――寺宿と浜宿（八坂神社裏）。浜宿方面からきた浜宿山車を仁井宿方面に先に通す。見つめる寺宿当役。	■当役交渉
7．本川岸の山車巡行	○「山車が出会った時は、当役どうしの交渉によって順序をきめる」
8．もめる当役交渉――荒久、船戸、仁井宿の三者交渉。ややこしい交渉。船戸の古役が強い主張。仁井宿、船戸、荒久の順に巡行。	
9．本川岸山車、のの字回しのあと番組定位置へ	
(3)　番組と総踊り	
1．定位置への整列――浜宿（拍子木を合図に停止）、□□□、仁井宿（道路幅を計測して幅寄せ（拍子木を合図に停止）。	■番組行事
2．整列した山車	○「２日目の夕方、各町の山車が定位置に集合し、つぎつぎにのの字回しが行われる」
3．触れる浜宿・高柳当役長と当役（１人）	
4．通しさんぎり――浜宿、寺宿、田宿、仁井宿、船戸、荒久（女性の太鼓打ち）、八日市場。	
5．浜宿当役長が駆け足で先頭に戻る	

6．観客を下げる浜宿・若連頭
7．浜宿の「のの字回し」――山村会館前。上からの撮影映像。
8．寺宿ののの字回し
9．他の町内ののの字――山村会館からの俯瞰。寺宿、田宿を長めに入れる。各町内の山車紹介。

■テロップ（町と人形）（それぞれテロップ）

・浜宿（武甕槌命）
・寺宿（金時山姥）
・田宿（伊弉那岐尊）
・仁井宿（鷹）
・船戸（神武天皇）
・下仲町（菅原道真）
・上仲町（太田道灌）
・荒久（経津主命）
・本川岸（天鈿女命）
・八日市場（鯉）

10．のの字を終了して総踊りに向かう浜宿山車――忠敬橋方向へ
11．総踊り――正上前の浜宿、寺宿、田宿。
12．スモゲン前の総踊り――浜宿。
13．山村会館前でつづくのの字回し――船戸、下仲町、上仲町、荒久、本川岸、八日市場を短くつなげる。
14．小野川沿いに集まる山車と総踊り――仁井宿、船戸、本川岸
15．浜宿最後の総踊り――木下旅館前。
16．八日市場山車も来る
17．浜宿山車が忠敬橋から八坂神社方面へ向かう
18．新橋本町役員の見送り――忠敬橋

■総踊り
○「小野川沿いにはたくさんの山車が集まり、４ケ所の定位置で若連の手踊りが披露される」

13．夏祭第３日（７月14日）
(1) 三役が八坂神社へ
1．八坂神社拝殿・神輿
2．獅子のかざり
3．猿田彦のかざり
4．神楽のかざり――獅子頭、寄付金のビラがつく
5．使者、獅子宿へ（第１回）

■第３日目（７月14日）

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
6．獅子宿で正座して待つ獅子会役員	■獅子宿への使者
7．使者の口上――「	
8．猿田彦使者が仁井宿・伊能家へ――口上のあと戻る。	■猿田彦宿への使者
9．神楽宿への使者――紙に書いた口上を読み上げる。	
10．使者は浜宿鳥居まで戻って待機	
11．神楽宿への第2回目の使者	■神楽宿への使者
12．神楽宿への第3回目の使者――「これをもって7回目のお迎えと致したく――」。	○「使者の使いはかつては「七度半の使い」であったが、現在は3回に短縮されている」
13．神楽デボケ――小林家座敷。使者も座敷に上がる。 ・飯島・浜宿区長あいさつ ・小林甚四郎息子のあいさつ ・香取区長の音頭で乾杯 ・料理――刺身、ラッキョウ、漬物 ・獅子頭を持って出て神楽台車に載せる	■神楽デボケ
14．獅子のデボケ ・3回目の使者――「これをもって7回目の使者――」。 ・脇のテーブルで使者の接待――獅子会は座敷でデボケ ・子供たちが獅子宿前に整列――獅子頭をかぶる	■獅子デボケ
15．猿田彦のデボケ ・3回目の使者――「これをもって7回目のお迎えと致したく」「どうぞ上がって下さい」。 ・デボケ料理――刺身、豆腐、枝豆、漬物 ・伊能家当主、猿田彦面をつける ・出発	■猿田彦デボケ
16．獅子の一行が宿を出発	
17．猿田彦と獅子が合流――赤坂米店前。獅子のあとに猿田彦がついて浜宿鳥居へ。	
18．神楽が宿を出発	
19．浜宿鳥居で三役が合流――神楽が猿田彦にあいさつ。猿田彦が鳥居をくぐる。神楽が鳥居をくぐる。神楽、社務所へ。	○「獅子、猿田彦、神楽は八坂神社の鳥居前で合流し、神社に入る」
20．神楽の獅子頭を台に置く	
21．獅子のカシラと太鼓を置く。	
22．社務所で待つ参加者たち	
(2)　御霊移し神事	

1．各頭を拝殿に並べる――獅子、神楽、猿田彦の順
2．拝殿に昇る参列者
3．拝殿が幕で覆われる
4．八坂神社宮司が御霊を神輿に移す――シャクで神輿の担ぎ棒を軽くたたく。
5．御前立ちの儀――棟梁が神輿の前に鏡を置く。近くに各カシラが並ぶ。
6．棟梁参拝
7．献饌
8．参列者、拝殿から社務所へ
9．直会――社務所

■御霊移し神事

(3) 出御祭
1．参列者、拝殿に昇る
2．撤饌
3．神輿降ろし――棟梁指揮。
4．獅子と猿田彦の三遍まわり――3回本殿のまわりを回ったあと浜宿鳥居から出る。
5．神輿、神楽の三遍まわり――浜宿鳥居から出る。神輿、宮司、神楽の順。
6．宮司、馬車に乗る

■出御祭

■三遍まわり
○「獅子、猿田彦、神輿、神楽は、本殿のまわりを3回まわったのち神幸に出発する」

(4) 獅子・猿田彦の巡行
1．獅子の隊列
2．猿田彦の隊列
3．田んぼのなかを引き返す一行――香取神宮一の鳥居付近
4．各町内の先導役交代――荒久から仁井宿へ。仁井宿から八日市場へ。
(030307編集ここまで終了)

○「三役や神輿の巡行では、各町内の役員が案内をつとめる」

(5) 浜降り――忠敬橋
1．忠敬橋に向かう神輿
2．忠敬橋上に神輿を下ろす
3．盛土
4．小野川からパーンして神輿へ
5．修祓、祝詞
6．清めの儀
7．玉串奉奠――宮司、氏子総代、本宮区長、三役
8．撤饌
9．拝殿での直会――棟梁が指揮。神輿かき。
10．笛の音に合わせて担ぎ出す――八坂神社方向に行く神輿。ワッショイの

■浜降り
○「浜降りは、かつては小野川に浮かべた舟に神輿を乗せて行われた」

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
掛声。	
11. 神輿の隊列――神輿、宮司、神楽。	
(6) 町内祈祷――荒久	
1. 砂盛の用意	■町内祈祷（荒久）
2. 荒久不動尊前に神輿を据える	○「神輿巡行の途中、各町では町内安全を祈願する町内祈祷が行われる」
3. 宮司――「町内安全祈願をいたします」	
4. お祓い、祝詞――拍手を打つ	
5. 玉串奉奠	
6. 荒久町内役員の神輿先導――「仁井宿に引き継げよ」と指示。	
7. 神輿に続く神楽――笛	
8. 仁井宿役員と先導を交代――「よろしくお願いいたします」	
9. 仁井宿役員の先導	
(7) 山車巡行風景	
1. 荒久山車――女性の鼓	
2. 下仲町のソロバン曳き――大通り、小堀屋支店付近。上からの映像。	
(8) 個人祈祷――小林甚四郎	
1. 砂を盛る	■個人祈祷
2. 神輿を砂盛の上に据える――ウマの上に乗せる。棟梁指図。	○「役員や氏子総代などの家では、家内安全を祈願する個人祈願が行われる」
3. 供物準備	
4. 大玉串	
5. 宮司修祓、祝詞――家族4人、並ぶ。	
6. 玉串奉奠	
7. 大玉串を当主に渡す	
8. 神輿出発	
(9) 本川岸町内祈祷	
1. 供物	■町内祈祷（本川岸）
2. お祓い、祝詞――拍手	
3. 玉串奉奠――本川岸区長か？。一同手を合わせて拍手	
4. 出発	
5. 宮司のクルマが馬車からタクシーへ	
6. 神楽前駆	
(10) 向津祈祷	
1. 砂を盛る	■町内祈祷（向津）
2. 土手に上る神輿――神輿を据える	○「利根川土手の上では、対岸から参加している向津区の町内祈祷がおこなわれ

3．修祓、祝詞――「向洲をはるかに見る――」。
4．玉串奉奠
5．お神酒をいただく
6．神輿出発――土手を下る

る」

(11) 本宮区長宅の個人祈祷（氏子会会長祈祷）
1．神輿を据える
2．宮司「家内安全祈祷を行います」
3．祝詞――「本宮□□氏の――」
4．玉串奉奠――本宮区長、後ろで手を合わす妻と息子。
5．大玉串を宮司が区長に手渡す

■個人祈祷

(12) 夜の神輿巡行
1．神輿に提灯をつける――船戸区の提灯
2．高張提灯に火を入れる
3．神輿と各町の高張提灯
4．神輿出発――神楽がつづく
5．船戸区役員の先導
6．船戸から浜宿に先導が交代

(13) 獅子、猿田彦、八坂神社に帰る
1．獅子、猿田彦を先導する浜宿の役員――山車会館裏から浜宿鳥居へ
2．三遍まわり――猿田彦は伊能家の息子。面は取っている。本殿の周りを3回まわる。
3．それぞれの宿に向かう

(14) 神輿、八坂神社に帰る
1．小野川沿い、忠敬橋から大通りを行く神輿
2．山村会館前でもむ神輿
3．浜宿鳥居から入る――番組に整列した各町の役員が見送る
4．三遍まわり――拝殿の前に居並ぶ役員たちの前を回る

(15) 御霊移し
1．神輿を拝殿に上げる――岡野棟梁の指図。「ぴったりだ」。
2．消灯
3．ゴーという声――宮司、御霊を移す
4．幕が張られている

■御霊移し神事

(16) 神輿年番引継行事――拝殿前
1．各町の高張提灯
2．本宮区長あいさつ――「滞るなく本祭典を終了することが出来ました。

■惣町年番引継行事

シークエンス・シーン	○ナレーション　■テロップ
皆さんの賜物です。来年は下仲町さんとなります。下仲町は小さい町内です」 3．下仲町区長あいさつ――「船戸さんご苦労さまでした。小さな町ですが、よろしくお願いします」 4．提灯を前にして整列する区長 5．手締め――本宮区長発声。	○「神輿は八坂神社にもどると、拝殿前で惣町年番引継行事が行われる」
⑰　神輿年番引継番組行事 1．船戸区長から下仲町区長への伝達――紙を読む。「――めでたく終了いたしました。これで解散したいと思います」。紙は手渡さない。 2．つぎつぎの伝達口上――4回。最後は仁井宿への伝達。最後の区長は紙を読まない。 3．仁井宿役員が提灯を振って船戸区長に終了を知らせる 4．解散	■惣町年番引継番組行事 ○「最後に鳥居前に各町の役員が整列し、別れのあいさつをして引継ぎ行事は終了する」
⑱　浜宿山車、山車会館へ 1．浜宿方向から八坂神社に向かう浜宿山車 2．山車会館に入る――女性たち拍手。 3．最後の囃子 4．高柳当役長――「3日間ありがとうございました」。 5．仲間に抱きつく若連頭――山車巡行を終わって感激する若連たち 6．山車会館の定位置に据える	■クレジット 製作　国立歴史民俗博物館 上野和男、宇野功一 構成　松村克弥 撮影　日本シネセル株式会社 撮影協力　蘇理剛志、小笠原尚広 製作協力　インターボイス

Characteristics of Urban Society and the Compilation of a Pictorial Ethnography: Problems Surrounding the Production of a Pictorial Ethnography for Sawara

UENO Kazuo

This report examines the objectives, contents, method of compilation and the intentions behind an urban pictorial ethnography of Sawara City compiled for this research project. This research project has involved the compilation of a three–part pictorial folk chronicle with the objective of bringing to light the urban regional characteristics of Sawara City in Chiba Prefecture, which is a typical traditional, provincial city. The town of Sawara was divided into two large sections as far back as the Early Modern period, if not earlier. There were separate shrines and separate festivals were held annually, but at the same time they comprised a single urban society consisting of both opposition and solidarity. This type of regional social structure has been understood since the 19th century as the concept of a dualism. Sawara is an urban society that has a dualistic structure, something that is extremely rare in Japan.

The Sawara pictorial ethnography was produced to represent through pictures the regional urban characteristics of Sawara. Two of the three volumes are a ethnography of mainly the festivals of the Shinjuku district and the Honjuku district, while the remaining volume brings both of these districts together to portray through pictures the regional urban characteristics of Sawara as a whole. This paper looks at the various issues that arose in the course of compiling this ethnography, particularly those relating to taking the pictures and editing, and points out problem areas. There is also some discussion on the contents of this pictorial ethnography. There are many problems concerning the compilation of ethnography, particularly an urban ethnography, and there has yet to be sufficient discussion on this field. Pictorial ethnography are extremely important as a method of future research into urban societies.